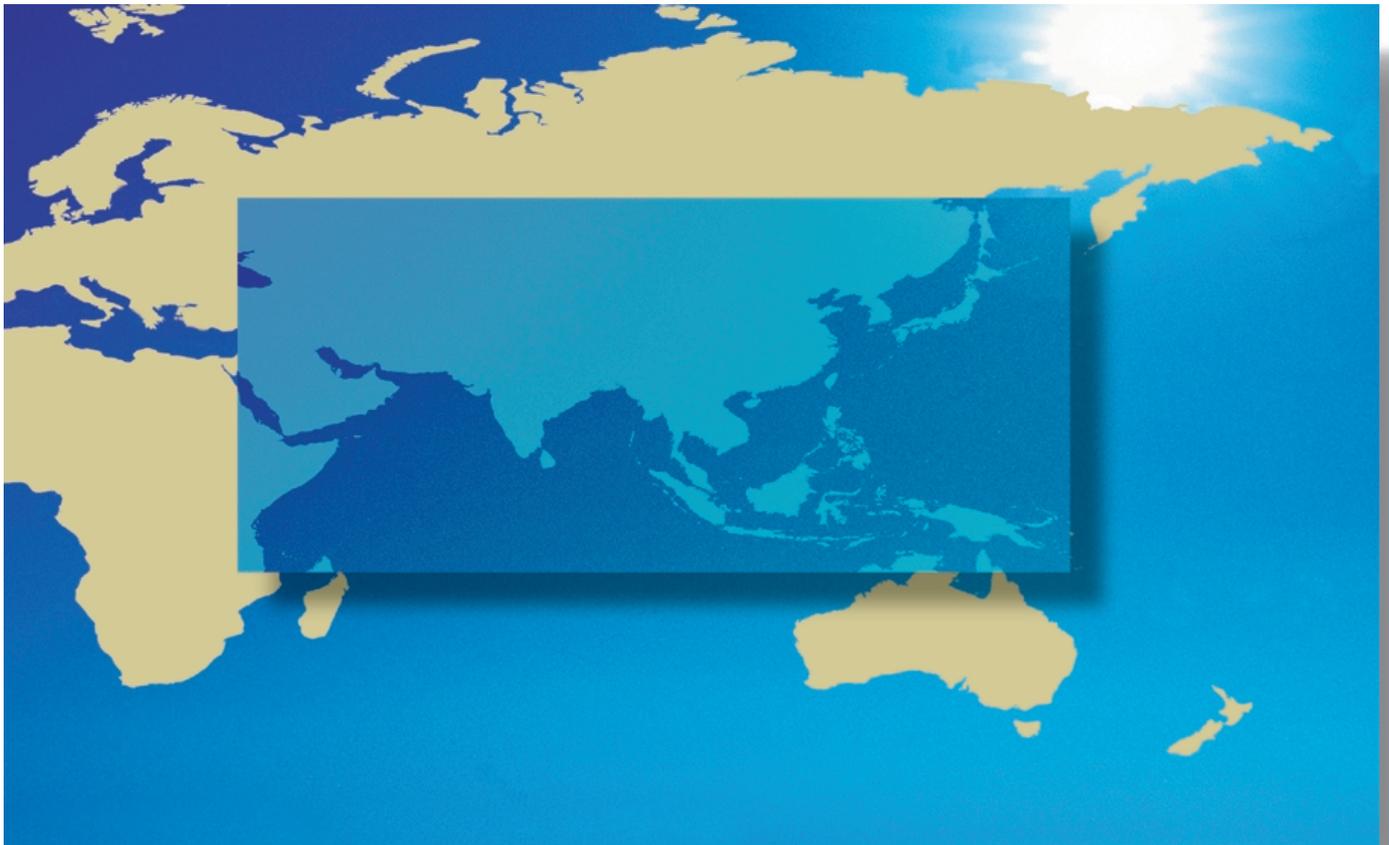


海洋安全保障情報月報

2010年11月号



目次

2010年11月の主要事象

1. 情報要約

1.1 海洋治安

トピック：母船、海賊グループに対する出撃前攻撃、そしてBMP
～ソマリア海賊襲撃事案の最近の特徴～

1.2 軍事動向

1.3 海洋境界

1.4 外交・国際関係

1.5 海運・造船・港湾

1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

2. 情報分析

「尖閣漁船衝突事件：中国外交・内政の視点から」

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2010 年 11 月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、酒井英次、関根大助、友森武久、向和歌奈、毛利亜樹、
高田祐子

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

2010年11月の主要事象

海洋治安：10月からソマリアの海賊による襲撃事案が増え、それに伴ってハイジャックされる船舶も10月には5隻、11月には7隻となっている。現在、アデン湾、ソマリア沖には、EU艦隊、NATO艦隊を始め、日本、中国、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、オーストラリア、ロシアなどの各国海軍戦闘艦や海上哨戒機が展開し、海賊対処作戦や商船護衛任務を遂行しているが、襲撃事案やハイジャック事案は後を絶たない。本号では、11月の海賊襲撃事案を紹介すると共に、最近の海賊襲撃事案の特徴を「トピック」として纏めた。

東海艦隊の誘導ミサイル駆逐艦「舟山」、同「徐州」、及び総合補給艦「千島湖」からなる構成され、総員780人余の第7次ソマリア派遣艦隊は2日、浙江省舟山から出発し、アデン湾とソマリア海域での護衛任務に向った。第6次艦隊は、22日に任務を終え、第7次派遣艦隊と交代した。28日付の解放軍報は、第6次派遣艦隊による護衛任務を総括する記事を掲載し、同部隊が「大国海軍が引き受けるべき責任を果たした」と強調した。

ロシア太平洋艦隊報道官によれば、太平洋艦隊所属駆逐艦、*the Admiral Vinogradov* は17日、海賊対処活動のためにソマリア沖に向けて、ウラジオストクを出港した。この艦隊の任務期間は12月までである。ロシアのメドベージェフ大統領は25日、ロシアはソマリア沖における海賊対処活動を、自国船と外国籍船の護衛、そして海軍の戦闘即応態勢の維持という、2つの理由から継続させていく、と述べた。

デンマークは11月20日から、ReCAAPの加盟国となる。アジア域外の加盟国は、ノルウェーとオランダに次いで3国目で、Denmark Maritime AuthorityがFocal pointとなる。

国連安全保障理事会は23日、ソマリア暫定政府との協力の下、加盟国及び地域機構に対して、ソマリア沖における海賊対処活動を遂行する権限付与を更に12カ月間延長する、安保理決議1950を全会一致で採択した。

軍事動向：ロシアとフランスの造船所は1日、共同企業体を創設する協定に調印した。この協定は、懸案となっているフランス海軍の*Mistral*級強襲揚陸艦購入に向けての重要な前進である。仏露両国は現在、フランスから1~2隻の*Mistral*級強襲揚陸艦を購入すると共に、別に2隻をロシア国内で建造する2+2スキームについて交渉中であり、2010年中にも契約が調印されると見られている。

2日付のロシアのRIA Novostiは軍事記者の評論を掲載し、ロシア海軍の建艦計画は徐々に活発化しつつあり、しかもその特徴は戦闘艦と潜水艦の標準化を最大限に追求していることで、これは30~35年前とは全く異なる特徴であるとして、戦闘艦も潜水艦も数種の基本となるプラットフォームと標準装備があり、機能に応じて各種の装備を搭載するという、標準化が進められている状況を解説している。

中国海軍南海艦隊は2日、年次実働・実弾演習、「蛟竜2010」を南シナ海で実施した。今回の演習には、海軍の海兵旅団から約1,800人の人員、100以上の各種の武器、装備が参加した。演習は、揚陸戦闘の全課程、即ち機動集結、乗艦・輸送、強襲揚陸及び上陸地点の確保・保持の4つの段階を全て演練するものであった。

ベトナムのグエン・タン・ズン首相は10月30日の記者会見で、「カムラン湾海軍基地施設で、あらゆる外国の海軍戦闘艦に対して役務を提供する用意がある」と述べたが、8日付の英紙、*The*

Telegraph は、外国海軍艦艇がカムラン湾基地にアクセスすることができれば、南シナ海において中国に対抗する上で、重要な基地となりつつある、と報じている。

米海軍のラフェッド作戦部長は 10 日の講演で、中国海軍の増強ぶりについて、中国海軍は、増強に併せて運用パターンを変えつつあり、シーレーンや資源確保などから自国に重要だと見なされる海域ではより活発に行動している、ソマリア沖と同じような協力関係を、南シナ海や他の海域でも行うべきだ、などと述べた。

西側の専門家筋によれば、大連の造船所で改修中の中国空母、「施琅」(the *Shi Lang*) (旧名「ワリヤーク」) の改修が完了間近になっているようである。「施琅」は 2011 年か 2012 年に海上に出ると見られる。20 日付の *The Australian* などが報じた。

北朝鮮の砲撃に対応する形で、米韓両国軍は、11 月 28 日から 12 月 1 日まで、黄海の南部海域で合同軍事演習を実施した。この演習の目的は、防衛的性格のもので、以前から計画されていたものであるが、米韓同盟の重要性と地域の安定と安全保障に対する米国のコミットメントを誇示するものである。この演習には、米側から空母、USS *George Washington* (CVN 73) などが参加し、韓国側から数隻の戦闘艦が参加した。

海洋境界：ベトナムは 5 日、東海（南シナ海）の 80% 以上を中国の領域とする「U 字型」ラインを、新たに始めたオンライ地図サービスの地図から削除するよう、中国に要求した。

中国の最新鋭漁業監視船、「魚政 310」は 16 日、広州市を出港して東シナ海に向けて 20 日間の処女航海を開始した。「魚政 310」は「漁政 201」と共に、28 日朝、尖閣諸島の大正島北西約 44 キロの接続水域で視認された。2 隻は、尖閣諸島の日本の領海外を周航した。

外交・国際関係：在モスクワの防衛問題専門家、Dr. Pavel E. Felgenhauer は、4 日付の *Eurasia Daily Monitor* に寄稿した論説で、北方領土の戦略的価値について、以下のように述べている。ロシア海軍は、太平洋海域に展開する最新型の *Borey* 級 SSBN を護衛するために十分な攻撃型原潜、SSN と水上戦闘艦を持っていない。唯一の安全な選択肢は、千島列島に護られて半ば閉鎖されたオホーツク海への展開である。しかしロシアは、千島列島を維持するためには、現地経済を発展させるための膨大な投資と日本からの支援を必要としている。日本からの支援の見返りは、歯舞諸島と色丹島の返還ということになる。モスクワは、この取引を積極的に推し進めてくると見られるが、国後島と択捉島の返還は論外であろう。

海運・造船・港湾：世界のトップ海運ハブとしてのロンドンの地位は、シンガポールや上海などのアジア勢から脅かされつつある。シンガポールには最近、新たな海運関係の事務所が開設されており、シンガポールは海運業と海運サービス業務の両面で極めて強力な存在になっている。しかし一方で、海運業の首都として数世紀にわたって培われてきたロンドンの強みは揺るぎそうにもないと見る、専門家も多い。更に、シンガポールは、特に上海からの挑戦を受けている。5 日付の *Shiptalk* が報じた。

海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：韓国知識経済省は 2 日、韓国南西部沿岸沖に、2019 年までに原子力発電所 2 基に匹敵する 2,500 メガワットの発電能力を持つ、風力発電施設を建設すると発表した。政府は将来的に、海上風力発電能力で世界 3 大国の 1 つになることを目指している。

ミャンマーは4日、タイ南部国境地域のダウエイにある深水港周辺に最大6万4,000ヘクタールの面積を持つ同国初の経済特区（Special Economic Zone: SEZ）を建設する、と発表した。

台湾では、ソマリアの海賊による脅威のため、メバチ・マグロ漁船141隻の内、66隻がインド洋への出漁を取り止めている。このため、台湾は、17日から27日までパリで開催された大西洋マグロ類保存国際委員会第17回特別会合（年次会合）に提出した文書で、業界の損失を補うために、2010年と2011年に15隻の休業マグロ漁船をインド洋から大西洋に「移管」することを要請した。

情報分析：海外の視点では、尖閣諸島（中国名：釣魚島）漁船衝突事件における対日圧力の展開は、南シナ海「核心利益」論、東アジア海洋における解放軍の軍事力誇示と共に、中国の対外姿勢の強硬化を示す現象として受け止められている。それでは、尖閣漁船衝突事件をめぐって、中国ではどのような議論があるのだろうか。中国の対外姿勢が強硬化するとみる海外の論調は、中国ではどのように受け止められ、どのような反応が出ているのだろうか。今月の情報分析では、同志社大学の毛利亜樹が「尖閣漁船衝突事件：中国外交・内政の視点から」と題して、この問題を取り上げた。

1. 情報要約

1.1 海洋治安

11月2日「中国第7次ソマリア派遣艦隊、出航」(PLA Daily, November 2, 2010)

東海艦隊の誘導ミサイル駆逐艦「舟山」、同「徐州」、及び総合補給艦「千島湖」からなる構成され、総員780人余の第7次ソマリア派遣艦隊は2日、浙江省舟山から出発し、アデン湾とソマリア海域での護衛任務に向った。

記事要旨：中国の第7次ソマリア派遣艦隊は2日、浙江省舟山から出発し、アデン湾とソマリア海域での護衛任務に向った。第7次艦隊は、東海艦隊の誘導ミサイル駆逐艦「舟山」、同「徐州」、及び総合補給艦「千島湖」からなる構成され、同艦隊にはヘリコプター2機、特殊作戦部隊(SWAT)チーム数十人、25人の女性医療チーム、及び、心理カウンセラーと通信要員を含む、総員780人余が乗艦している。今回派遣の3隻は、いずれも2回目の派遣である。

艦隊は5日、南沙諸島海域を通過時に、南沙諸島に駐在している解放軍将兵に敬意を表する通信を行った。17日にはアデン湾に到着し、第6次派遣艦隊に合流し、22日に護衛任務を交代した。

記事参照：Three Chinese escort ships sail for Gulf of Aden, Somali waters

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-11/03/content_4205123.htm

Seventh Chinese naval escort taskforce arrives in Gulf of Aden

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-11/18/content_4208811.htm

6th and 7th Chinese naval escort taskforces hold mission hand-over ceremony

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-11/24/content_4210039.htm



南シナ海における洋上補給訓練

Source: http://news.xinhuanet.com/english2010/photo/2010-11/07/c_13595509_6.htm

【関連記事】

「中国第6次派遣艦隊、大国海軍の責任を完遂—解放軍報総括」(解放軍報電子版、November 28, 30, 2010)

中国のソマリア沖派遣第6次艦隊は、22日に任務を終え、第7次派遣艦隊と交代した。28日付の解放軍報は、第6次派遣艦隊による護衛任務を総括する記事を掲載し、同部隊が「大国海軍が引き受けるべき責任を果たした」と強調した。

記事要旨：中国のソマリア沖派遣第6次艦隊は、22日に任務を終え、第7次派遣艦隊と交代した。

28日付の解放軍報は、第6次派遣艦隊による護衛任務を総括する記事を掲載し、同部隊が「大国海軍が引き受けるべき責任を果たした」と強調して、要旨以下の諸点を指摘した。

- ① 第6次派遣艦隊は、615隻の中国内外の商船の安全を100%確保し、海賊船の疑いのある船舶を190回追い払ったり臨検を行い、海賊に乗り込まれたり攻撃された4隻の船舶を救助し、中国内外の船員のために9度医療救護を行った。任期中、同部隊が護衛した船舶の半数以上が外国の商船であったという。
- ② 第6次派遣艦隊は、駆逐艦、補給艦、揚陸艦に搭載されたエアクッション艇、高速パトロール艇、艦載ヘリコプターから編成されていた。解放軍報は、この編成は「中国海軍の遠海における護衛兵力運用の新しいモデルとなっただけでなく、アデン湾で護衛任務を展開する各国海軍の中でも初めてであった」と強調した。第6次派遣部隊による護衛を希望する各国の商船がアデン湾西部の海域に集合したとき、1隻の商船が数キロ先の海上を離れて航行していた。航行速度が遅く、隊形が乱れた航行は海賊の襲撃に遭いやすいので、エアクッション艇によるパトロールを行った。これにより警戒範囲を拡大でき、商船への接近を試みる海賊船の疑いのある船に対しても威嚇になるという。
- ③ また、エアクッション艇と高速パトロール艇は、航続時間が短く、コストが高いという艦載ヘリコプターの欠点を補い、部隊がコントロールできる海域を拡大し、十分な警戒時間を確保することができた。なお、アデン湾を離れた第6次派遣艦隊は、11月27日、中国海軍として初めてサウジアラビアのジェッダ港に入港し、5日間の友好訪問を開始した。

記事参照：原文は中国語

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/28/content_44347.htm

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/28/content_44351.htm

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/30/content_44534.htm

11月2、3日「スペイン海軍戦闘艦、2つの海賊グループを捕捉」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 4, 2010)

EU艦隊に所属するスペイン海軍フリゲート、SPS *Galicia* は2日、3日の両日で、11人の海賊容疑者と2隻の小型ボートを拘束したが、証拠不十分で11人を1隻のボートに乗せて解放し、もう1隻のボートを押収した。

記事要旨：EU艦隊に所属するスペイン海軍フリゲート、SPS *Galicia* は2日、ケニア沿岸を哨戒中、商船が2度にわたって海賊に襲撃されたとの通報を受けた。商船は襲撃回避に成功したが、襲撃海域から75カイリ離れた海域にいたSPS *Galicia* は、襲撃した海賊グループを捜索した。同艦のヘリとフランスの海上哨戒機との協同で、海賊グループを発見した。ヘリからは、海賊グループが多くの武器類とオレンジ色の防水シートを海中に投棄するのが視認された。同艦の臨検チームが小型ボートを臨検し、燃料缶1個、数個の飲料水缶、梯子を押収し、乗っていた7人の海賊容疑者を拘束した。更に、翌3日早朝、同艦のヘリが新たに2隻の小型ボートを発見した。ボートは強力な船外機を装備し、梯子と数個の飲料水缶を積んでいた。同艦の臨検チームが1隻を拘束したが、もう1隻は逃亡した。結局、同艦は、2日間で11人の海賊容疑者と2隻の小型ボートを拘束したが、証拠不十分で11人を1隻のボートに乗せて解放し、もう1隻のボートを押収した。

記事参照：EU NAVFOR warship SPS GALICIA disrupts two Pirate Action Groups

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/eu-navfor-warship-sps-galicia-disrupts-two-pirate-action-groups/>



The EU NAVFOR warship SPS Galicia, with her helicopter, her boarding team, and with the support of an EU NAVFOR Aircraft located and disrupted two Pirate Action Groups comprising of 2 skiffs with 11 suspected pirates onboard.

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 4, 2010

11月3日「ソマリアの海賊、小型客船をハイジャック」 (EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 3, 2010)

コモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* は3日朝、コモロからタンザニアのダルエスサラームに向けて航行中、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は長さ43メートルで、ハイジャック時、29人が乗っていた。NATO Shipping Centre は16日、該船は航行中で、海賊による洋上での襲撃のための母船として使用されると見られる、との警報を出した。

記事要旨：コモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* は3日朝、コモロからタンザニアのダルエスサラームに向けて航行中、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は長さ43メートルで、ハイジャック時、29人が乗っていた。その内、9人が乗員で、タンザニア人1人、コモロ人4人、マダガスカル人4人であった。一方、乗客はタンザニア人12人、コモロ人8人の計20人であった。

記事参照：MV ALY ZULFECAR pirated in the Somali Basin

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/mv-aly-zoulfecar-pirated-in-the-somali-basin/>

11月3日「セイシェル、11人の海賊容疑者に懲役刑」 (EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 4, 2010)

セイシエルの裁判所は3日、EU艦隊から引き渡されていた海賊容疑者11人に対して、懲役6年の実刑判決を言い渡した。EU艦隊はこれまで、93人の海賊容疑者を拘束したが、今回の11人を含めて43人が既に裁判を受け、服役している。

記事要旨：セイシエルの裁判所は3日、EU艦隊から引き渡されていた海賊容疑者11人に対して、懲役6年の実刑判決を言い渡した。EU艦隊司令部のハウズ作戦部長 (MG, Buster Howes, Operation Commander of EU NAVFOR Somalia) は、「この判決は、EU艦隊がセイシェルに引き渡した海賊容疑者に対する初めてのものであり、海賊制圧に向けてのEUとセイシェル間の協力における重要な

前進である」と評価している。11人は、2010年3月5日にスペイン漁船を襲撃した際に拘束された。EU艦隊はこれまで、93人の海賊容疑者を拘束したが、今回の11人を含めて43人が既に裁判を受け、服役している。

記事参照：Verdict for the first EU NAVFOR case in Seychelles

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/verdict-for-the-first-eu-navfor-case-in-seychelles/>

11月3日「デンマーク、ReCAAPに加盟へ」(Denmark Maritime Authority, November 3, 2010)

デンマークは11月20日から、ReCAAPの加盟国となる。アジア域外の加盟国は、ノルウェーとオランダに次いで3国目で、Denmark Maritime AuthorityがFocal pointとなる。

記事要旨：デンマークは11月20日から、ReCAAPの加盟国となる。多くのデンマーク関係船がReCAAP対象海域を航行しており、加盟は当然である。アジア域外の加盟国は、ノルウェーとオランダに次いで3国目で、Denmark Maritime AuthorityがFocal pointとなる。

記事参照：Denmark joins international network against pirates

<http://www.dma.dk/news/Sider/Denmarkjoinsinternationalnetworkagainstpirates.aspx>

11月4日「タイ海軍、自国漁船乗組員を救出」(The Bangkok Post, November 5, 2010)

タイ海軍が5日に明らかにしたところによれば、ソマリア沖派遣のタイ海軍外洋哨戒艦、HTMS *Pattani* は4日、2日にソマリアの海賊に乗っ取られ、その後銃撃戦で撃沈されたタイ漁船の乗組員23人を救出した。

記事要旨：タイ海軍が5日に明らかにしたところによれば、ソマリア沖派遣のタイ海軍外洋哨戒艦、HTMS *Pattani* は4日、海賊に乗っ取られ、その後銃撃戦で撃沈されたタイ漁船の乗組員23人を救出した。それによれば、イエメン籍船のタイ漁船、FV *Sirichai Nava 11* は2日夕、イエメン沿岸約15カイリの海域で、海賊に襲撃され、ハイジャックされた。HTMS *Pattani* が通報を受けたとき、現場海域から360カイリ離れた海域にいた。同艦は3日に現場に到着したが、該船を発見できなかった。同艦からヘリが発進し、捜索を開始した。翌4日、ヘリは、漂流貨物や生存者を発見した。タイ人7人、カンボジア人15人、イエメン人警官1人の23人が救助されたが、タイ人1人とイエメン人警官4人が行方不明となっている。乗組員の話によれば、2日に小型高速ボートに乗った10人のソマリア人海賊に襲撃され、乗っ取られた。その後、2人がボートで該船を離れ、残りの8人がソマリア沿岸に向けて該船を航行されている途中、国籍不明のボートに銃撃され沈没した。乗組員は、8人の海賊の生存については知らないという。

記事参照：Navy saves Thai trawler Somali pirate castaways

<http://www.bangkokpost.com/news/local/204981/thai-fishing-boat-robbed-off-somalia>

11月5日「ケニアの裁判所、海賊容疑者に無罪判決」(Gulf Times, November 6, 2010)

ケニアの裁判所は5日、ソマリア人海賊容疑者17人に無罪を言い渡した。判事は、検察側が犯罪を立証できなかったことを理由としている。

記事要旨：ケニアの裁判所は5日、ソマリア人海賊容疑者17人に無罪を言い渡した。17人の容疑者は、2009年5月13日にエジプトのばら積み船MV *Amira* を襲撃した際、米韓両国海軍戦闘艦の連携で逮捕され、ケニアに引き渡されていた。判事は、検察側が犯罪を立証できなかったことを理由としている。西側諸国との間でケニアが国内で海賊を起訴する取り決めに調印して以来、初の無罪判

決となった。現在、ケニアには、主として 2008 年以降に各国派遣艦隊に拘束され、その後移送され収監されている海賊容疑者が約 136 人いる。

記事参照 : Kenya court acquits 17 piracy suspects

http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=396712&version=1&template_id=39

11 月 6 日「ソマリアの海賊、ハイジャック船 2 隻を解放」(Shiptalk, November 6, 2010)

ソマリアの海賊は 6 日、ハイジャック船 2 隻、シンガポール籍船のケミカルタンカー、MT *Golden Blessing* と韓国の VLCC、MT *Samho Dream* を解放した。身代金は、それぞれ 900 万米ドルと 950 万米ドルと報じられている。

記事要旨 : ソマリアの海賊は 6 日、ハイジャック船 2 隻を解放した。中国運輸省によれば、シンガポール籍船のケミカルタンカー、MT *Golden Blessing* は 6 日に解放され、中国ソマリア派遣艦隊に護衛され、安全な海域に向けて航行中である。該船は、6 月 28 日にインドからサウジアラビアに向けて航行中、アデン湾でハイジャックされた。乗組員は 19 人で、全て中国人である。中国運輸省は解放の詳細について言及していないが、身代金として 900 万米ドルが支払われたと報道されている。

韓国の船社が運航するマーシャル諸島籍船の VLCC、MT *Samho Dream* も 6 日に解放された。該船は 4 月 4 日、1,700 万米ドル相当の原油を積んでイラクから米国に向けて航行中、インド洋でハイジャックされた。報道によれば、950 万米ドルの身代金が現金で支払われたという。

記事参照 : Double Release

<http://www.shiptalk.com/?p=6405>

11 月 6 日「オランダ海軍洋上補給艦、海賊グループの小型ボート 2 隻を破壊」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 8, 2010)

EU 艦隊に所属するオランダ海軍洋上補給艦、HNLMS *Amsterdam* から発進した艦載ヘリは 6 日朝、9 人が乗り込み、多くの燃料と数本の梯子を積んだ 2 隻の不審な小型ボートを発見した。警告射撃でボートを停船させたが、9 人の海賊容疑者は海中に飛び込み、彼らは海岸に泳ぎ着いた。同艦は、2 隻のボートを積んでいた装備類と共に破壊した。

記事要旨 : EU 艦隊の発表によれば、EU 艦隊に所属するオランダ海軍洋上補給艦、HNLMS *Amsterdam* から発進した哨戒活動中のヘリは 5 日、9 人が乗り込み、多くの燃料と数本の梯子を積んだ 2 隻の不審な小型ボートを発見した。ヘリが停船を呼びかけた後、警告射撃を行い、同艦の臨検チームが 2 隻のボートを追跡したが、ソマリア沿岸に向けて逃亡した。翌 6 日朝、艦載ヘリがこのグループを発見し、ボートに停船を求めた後、警告射撃を行った。ボートは停船したが、乗っていた 9 人の海賊容疑者は海中に飛び込み、彼らは海岸に泳ぎ着いた。同艦は、2 隻のボートを積んでいた装備類と共に破壊した。

記事参照 : EU NAVFOR HNLMS AMSTERDAM disrupts nine pirates

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/eu-navfor-hnlms-amsterdam-disrupts-nine-pirates/>



2 skiffs were destroyed by the warship at the scene, together with associated paraphernalia (ladders and weapons) insuring these pirates will not be able to engage in piracy for the coming period of time

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 8, 2010

11月10日「フランス空軍早期警戒管制機、ジブチから海賊哨戒監視任務開始」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 11, 2010)

フランス空軍早期警戒管制機 E-3F SDCA は 10 日、ジブチから海賊哨戒監視任務を開始した。任務期間は 3 週間である。

記事要旨：フランス空軍早期警戒管制機 E-3F SDCA は 10 日、ジブチから海賊哨戒監視任務を開始した。任務期間は 3 週間である。同機は、360 度、250 カイリの哨戒監視レーダーを搭載しており、インド洋とアデン湾に展開する EU 艦隊と航空機部隊と連携して、広大な海域を監視することができる。同機は、60 人の派遣部隊によって運用される。

記事参照：EU NAVFOR welcomes a French E-3F SDCA into the Force

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/eu-navfor-welcomes-a-french-e-3f-sdca-into-the-force/>



E3-F SDCA (French Air Force)

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 11, 2010

11月11日「ソマリアの海賊、パナマ籍船をハイジャック」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 11, 2010)

ソマリアの海賊は11日、パナマ船籍のケミカルタンカー、MT *Hannibal II* (24,105DWT) を「アフリカの角」東方約860カイリのインドに近い海域でハイジャックした。該船の乗組員は31人である。

記事要旨:ソマリアの海賊は11日、パナマ船籍のケミカルタンカー、MT *Hannibal II*(24,105DWT) を「アフリカの角」東方約860カイリのインドに近い海域でハイジャックした。該船は、植物油を積んでマレーシアからスエズに向けて航行中であった。該船の乗組員はチュニジア人23人、フィリピン人4人、クロアチア人1人、グルジア人1人、ロシア人1人、モロッコ人1人の計31人である。

記事要旨: MV HANNIBAL II pirated in the Somali Basin

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/mv-hannibal-ii-pirated-in-the-somali-basin/>



MT *Hannibal II*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 8, 2010

11月12日「ソマリアの海賊、中国船をハイジャック」(Global Times, November 15, 2010)

中国の船社所有のパナマ籍船の貨物船、MV *Yuan Xiang* (22,356DWT) は12日深夜、インドに近いアラビア海でソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は29人で、全員中国人である。

記事要旨:中国の船社所有のパナマ籍船の貨物船、MV *Yuan Xiang* (22,356DWT) は12日深夜、インドに近いアラビア海でソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は29人で、全員中国人である。中国の船社、The Ningbo Hongyuan Ship Management Co によれば、海賊から該船の行き先をソマリアに変えたとの通報を受けたが、身代金の要求はまだないという。同社は、中国政府関係機関と国際機関を通じて、解放に向けての努力を始めている。

記事参照: Pirates nab 29 Chinese

<http://world.globaltimes.cn/africa/2010-11/591989.html>



MV Yuan Xiang

Source: <http://www.shipspotting.com/gallery/photo.php?lid=1174677>

11月13日「スペイン海軍戦闘艦、海賊グループを捕捉」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 15, 2010)

EU艦隊所属のスペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は13日、大型ボートに乗った4人の海賊グループを捕捉し、臨検した。4人の容疑者は証拠不十分で、ソマリアに送り返され、大型ボートは破壊された。

記事要旨：EU艦隊所属のスペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は13日、大型ボートに乗った4人の海賊グループを捕捉した。小型ボート1隻を伴った、このグループを最初に発見したのはEU艦隊の海上哨戒機で、通報を受けた同艦から臨検チームがRHIB (Rigid-Hulled Inflatable Boat) で現場海域に向かい、臨検した。小型ボートは逃亡した。4人の容疑者は証拠不十分で、ソマリアに送り返され、大型ボートは破壊された。

記事参照：EU NAVFOR warship disrupts Pirate Action Group

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/eu-navfor-warship-disrupts-pirate-action-group/>



The whaler was successfully intercepted and four suspected pirates found to be onboard.

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 15, 2010

11月17日「ロシア、太平洋艦隊所属戦闘艦船をソマリア沖に派遣」(RIA Novosti, November 17, 2010)

ロシア太平洋艦隊報道官によれば、太平洋艦隊所属駆逐艦、the *Admiral Vinogradov* は17日、海賊対処活動のためにソマリア沖に向けて、ウラジオストクを出港した。

記事要旨：ロシア太平洋艦隊報道官によれば、太平洋艦隊所属駆逐艦、the *Admiral Vinogradov* は 17 日、海賊対処活動のためにソマリア沖に向けて、ウラジオストクを出港した。搜索救難タグと補給艦、the *Pechenga* が随伴した。the *Admiral Vinogradov* は、7 月 3 日以来活動中の北洋艦隊所属誘導ミサイル駆逐艦、the *Admiral Levchenko* を旗艦とする派遣艦隊と交代する。

記事参照：Russian naval task force heads to Gulf of Aden

<http://en.rian.ru/russia/20101117/161371155.html>



The *Admiral Vinogradov*

Source: RIA Novosti, November 17, 2010

【関連記事】

「ロシア、海賊対処活動継続—メドベージェフ大統領」(RIA Novosti, November 25, 2010)

ロシアのメドベージェフ大統領は 25 日、ロシアはソマリア沖における海賊対処活動を、自国船と外国籍船の護衛、そして海軍の戦闘即応態勢の維持という、2 つの理由から継続させていく、と述べた。

記事要旨：ロシアは 2008 年 10 月以来、ソマリア沖で海賊対処活動を実施してきたが、メドベージェフ大統領は 25 日、ロシアはこの海域における海賊対処活動を継続するとして、以下のように述べた。「私は、2 つの理由からこの海域での国際的義務を継続させていく。まず、我々は、自国船と共に、外国との協定に基づいて外国籍船を護衛しなければならない。そしてこの活動が海軍の戦闘即応態勢の維持に寄与しているからである。」現在、太平洋艦隊から派遣されている護衛艦隊は、アデン湾到着以来、13 回の護衛任務を通じて、57 隻の船舶を護衛した。この艦隊の任務期間は 12 月までである。

記事参照：Russia to continue anti-piracy missions in Gulf of Aden - Medvedev

http://en.beta.rian.ru/mlitary_news/20101125/161498820.html

11 月 17 日「ブルガリア政府、NATO 艦隊に軍人派遣を決定」(The Sofia Echo, November 17, 2010)

ブルガリア政府は 17 日、アデン湾、インド洋海域で海賊対処作戦、Operation Ocean Shield を遂行中の NATO 艦隊に軍人の派遣を決定した。派遣される軍人は、国内法に従って、1 度に 5 人以上を派遣することができない。

記事要旨：ブルガリア政府は 17 日、アデン湾、インド洋海域で海賊対処作戦、Operation Ocean Shield を遂行中の NATO 艦隊に軍人の派遣を決定した。派遣される軍人は、国内法に従って、1 度に 5 人以上を派遣することができない。派遣費用は、国防省予算によって賄われる。ブルガリアは既に、海賊対処作戦、Operation Atlanta を遂行中の EU 艦隊にも軍人を派遣している。

記事参照 : Cabinet: Bulgarian forces will be deployed against Somali pirates

http://sofiaecho.com/2010/11/17/994991_cabinet-bulgarian-forces-will-be-deployed-against-somali-pirates

11月17日「フランス海軍戦闘艦、海賊グループを捕捉」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 17, 2010)

フランス海軍駆逐艦、FS *De Grasse* (EU 艦隊旗艦) は17日、1隻の小型ボートに7人が乗り込んだ海賊グループを捕捉した。臨検チームが武器、弾薬を押収した上で、7人の海賊容疑者を証拠不十分でボートに乗せソマリアに送り返した。

記事要旨 : フランス海軍駆逐艦、FS *De Grasse* (EU 艦隊旗艦) は17日、1隻の小型ボートに7人が乗り込んだ海賊グループを捕捉した。17日朝、フランス海軍補給艦、FS *Meuse* から発進したヘリがアデン湾で不審船を発見し、付近の海域にいた FS *De Grasse* に通報した。同艦から発進したヘリがこのグループを発見し、警告射撃で停船させた。同艦の臨検チームが到着するまでに、彼らが梯子を船外に投棄するのがヘリから視認されたが、臨検チームはロケット推進擲弾筒 2 基、AK-47 強襲ライフル 1 丁、7.62 ミリ弾薬などを発見し、押収した。7人の海賊容疑者は証拠不十分で、ボートでソマリアに送り返された。

記事参照 : EU NAVFOR Flagship FS DE GRASSE disrupts a Pirate Action Group

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/eu-navfor-flagship-fs-de-grasse-disrupts-a-pirate-action-group-2/>



The EU NAVFOR Flagship FS De Grasse intercepted and disrupted a Pirate Action Group comprising of 1 skiff with 7 suspected pirates onboard

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 17, 2010

11月18日「米海軍戦闘艦、モルディブ沿岸警備隊と訓練」(U.S. Navy 7th Fleet News, November 19, 2010)

米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Momsen* (DDG 92) は18日、モルディブ沿岸警備隊との間で、同国の EEZ 内で海洋空間識別能力 (maritime domain awareness) 訓練を実施するために、首都、マレに到着した。

記事要旨 : 米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Momsen* (DDG 92) は18日、モルディブ沿岸警備隊との間で、同国の EEZ 内で海洋空間識別能力 (maritime domain awareness) 訓練を実施するために、首都、マレに到着した。艦長のウイライ中佐 (Cmdr. Jay D. Wylie) は、「モルディブ政府は、海洋空間識別能力を強化するために、我々に支援を求めてきた。インド洋における遠隔の島嶼国家と

して、モルディブは、海賊、不法移民、不法操業などの多様な海洋の脅威に直面しており、訓練を通じて、海洋監視、情報の共有に関して同国沿岸警備隊と協同する。このことは、インド洋の安全保障を強化することになる」と語った。モルディブはインド洋の南北に数百カイリにわたって広がる多くの環礁からなり、陸地面積はワシントン DC の 2 倍程度だが、400 カイリ以上の海岸線と広大な EEZ を持つ、人口 40 万人の国家である。USS *Momsen* は、2008 年に USS *Decatur* (DDG 73) が同国を訪問して以来、初めての米艦である。

記事参照：USS *Momsen* Promotes Maritime Domain Awareness with Maldives Coast Guard
<http://www.c7f.navy.mil/news/2010/11-november/013.htm>

11 月 18 日「中国海軍第 6 次派遣艦隊、中国商船を海賊の襲撃から救出」（解放軍報電子版、アデン湾、November 21, 28, 2010）

中国の第 6 次派遣艦隊は 18 日、衛星電話を通じ、中国遠洋運輸公司所有の貨物船、「楽縦」を、海賊の追跡から脱出に導いた。第 7 次派遣艦隊の誘導ミサイル駆逐艦、「徐州」が現場に到着し、襲撃で出たけが人を救護した。

記事要旨：護衛任務中の中国第 6 次派遣艦隊は 18 日 16 時頃、中国遠洋運輸公司（COSCO）所有の貨物船、「楽縦」（29,108DWT）から、ソコトラ島東方約 704 カイリのアラビア海で武装した高速ボート 2 隻に追われているとの救難信号を受け取った。しかし、当該海域は第 6 次派遣部隊から 2,300 キロ余り離れており、全速でも 2 日かかる距離であった。そのため、第 6 次派遣艦隊指揮官は電話を通じ、該船の船長に冷静を呼びかけ、高压放水などの対処を指導し、海賊の該船乗り込みを阻止した。16 時 30 分頃、「楽縦」は海賊の襲撃を振り切ったものの、海賊からの銃撃で負傷者が出た。20 日 6 時、第 7 次派遣艦隊の誘導ミサイル駆逐艦、「徐州」が現場に到着し、けが人に応急措置を施した。「楽縦」は「徐州」にエスコートされ、オマーンのサララ港に向かった。

記事参照：原文は中国語

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/21/content_43806.htm

11 月 18 日「オーストラリア、新型海洋無線通信システムをインドネシアに供与」（Security Access.com, November 18, 2010）

インドネシアは、オーストラリアの支援で、新型海洋無線通信システム、Global Maritime Distress and Safety System（GMDSS）を装備した、4 カ所の Indonesian Maritime Regional Coordination Centre を開設する。最初のセンターがバリ島のカラングセムに 18 日に開設され、運用が開始される。他の 3 カ所の Maritime Regional Coordination Centre は、西チモール、マルク諸島、パプア（ニューギニア島）に間もなく開設される。

記事要旨：オーストラリアはこのほど、インドネシアとのパートナー計画の一環として、新型海洋無線通信システム、Global Maritime Distress and Safety System（GMDSS）を設置するために 200 万米ドルを供与した。オーストラリア内務省によれば、4 カ所建設予定の Indonesian Maritime Regional Coordination Centre の最初のセンターがバリ島のカラングセムに 18 日に開設され、運用が開始される。VHF 無線ネットワークはインドネシア群島内のあらゆる地域から海洋無線メッセージをモニターでき、インドネシア当局は、不法移民、麻薬の密輸や不法操業といった海洋犯罪防止と人命救助のために迅速かつ効果的な措置を取ることができる。このネットワークを通じて収集された海洋安全保障情報は、国境を越えた海洋犯罪やその他の脅威に対処するために、インドネシアとオ

ーストラリアの 12 の関係機関に伝達される。また船舶に GMDSS を搭載することで、最寄りの Maritime Regional Coordination Centre に、当該船舶の登録情報、船名、位置情報などを通報することができる。カランガセムに続く他の 3 カ所の Maritime Regional Coordination Centre は、西チモール、マルク諸島、パプア（ニューギニア島）に間もなく開設される。

記事参照 : Aust donates to Indonesian maritime security

<http://www.securityaccess.com.au/932E8A1C-F2D9-11DF-898A005056B05D57>

11 月 18 日「ケニア、モンバサ港入港船舶に対する安全航路帯を設置」(Daily Nation, Kenya, November 18, 2010)

ケニア海洋局 (Kenya Maritime Authority: KMA) はこのほど、ケニア領海内における海賊対策として、モンバサ港に入港する船舶に対する安全航路帯を設置した。入港船舶は、4 カ所に設定されたポイントで待機することが求められる。KMA によれば、これは、モンバサ港から幅 10 カイリ、長さ 20 カイリの回廊となっている。

記事要旨 : ケニア海洋局 (Kenya Maritime Authority: KMA) はこのほど、ケニア領海内における海賊対策として、モンバサ港に入港する船舶に対する安全航路帯を設置した。入港船舶は、4 カ所に設定されたポイントで待機することが求められる。KMA によれば、これは、モンバサ港から幅 10 カイリ、長さ 20 カイリの回廊となっている。KMA のカリギス (Nancy Karigithu) 局長は、「この回廊は、ケニア海軍がバース待ち船舶の安全確保のため哨戒を強化している、安全海域である」と述べている。漁船、小型船、プレジャーボートはこの回廊に立ち入ることを禁止されており、回廊に接近する海賊の小型ボートを識別し易くなっている。最近ケニア沖では海賊襲撃事案が増えており、ムワングラ (Andrew Mwangura) 東アフリカ船員支援計画代表によれば、9 月 28 日から 11 月 17 日までの間、17 隻の船舶が襲撃されている。このため、モンバサ港から出港する海賊グループの存在の可能性さえ取り沙汰されている。

記事参照 : Security zone set up in fight against piracy

[http://www.nation.co.ke/News/regional/Security%20zone%20set%20up%20in%20fig
ht%20against%20piracy%20%20/-/1070/1056324/-/95phg3z/-/index.html](http://www.nation.co.ke/News/regional/Security%20zone%20set%20up%20in%20fight%20against%20piracy%20%20/-/1070/1056324/-/95phg3z/-/index.html)

11 月 18 日「ウクライナ、EU 艦隊司令部に将校派遣」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 18, 2010)

ウクライナはこのほど、英国ノースウッドにある EU 艦隊司令部に将校 1 人を派遣した。EU 艦隊への同国の派遣は、これが初めてである。EU 非加盟国からの派遣はノルウェー、クロアチアに次いで 3 カ国目で、EU 艦隊への参加国は 24 カ国になった。

記事要旨 : ウクライナはこのほど、英国ノースウッドにある EU 艦隊司令部に将校 1 人を派遣した。EU 艦隊への同国の派遣は、これが初めてである。ウクライナの派遣将校 (中佐) は今度数カ月間、the “External Training and Lessons” Branch of the Operational Headquarters で勤務する。EU 非加盟国からの派遣はノルウェー、クロアチアに次いで 3 カ国目で、ノルウェーは定期的に戦闘艦を派遣している。これで、EU 艦隊への参加国は当初の 5 カ国から、24 カ国になった。

記事参照 : Ukraine offers a first contribution to EU NAVFOR

<http://www.eunavfor.eu/2010/11/ukraine-offers-a-first-contribution-to-eu-navfor/>

11月20日「ソマリアの海賊、中国籍船に乗り込み」(Worldwide Threat to Shipping (WTS) Report: Oct 26 – Nov 24, November 24, and Mritime Bulletin, November 21, 2010)

中国籍船の半潜没型重量貨物運搬船、MV *Tai An Kou* (20,247DWT) は20日、オマーン沖で10～15人の海賊グループに襲撃され、4人に乗り込まれた。詳細は不明ながら、ハイジャックされたとの報道もある。

記事要旨：米国防省の The National Geospatial-Intelligence Agency (NGA) が隔週に発表する Worldwide Threat to Shipping (WTS) Report がIMBの情報として伝えるところによれば、中国籍船の半潜没型重量貨物運搬船、MV *Tai An Kou* (20,247DWT) は20日、オマーンのサララ北東約438カイリの海域を航行中、3隻の高速ボートに乗り、ロケット推進擲弾筒とAK-47強襲ライフルで武装した10～15人の海賊グループに襲撃され、4人に乗り込まれた。該船は回避行動を取りながら、ロケットフレアを発射し、高圧放水を行った。乗組員は安全区画に避難した。

一方、ロシアの Mritime Bulletin はLloydの報道として、ソマリアの海賊は21日、中国籍船の半潜没型重量貨物運搬船、MV *Tai An Kou* をアラビア海のオマーン沖でハイジャックしたと報じているが、詳細は不明としている。

なお、該船の漢字表記は「泰安口」で、中国遠洋運輸公司 (China Ocean Shipping Company: COSCO) の所有である。

記事参照：Worldwide Threat to Shipping (WTS) Report: Oct 26 – Nov 24

http://msi.nga.mil/MSISiteContent/StaticFiles/MISC/wwtts/wwtts_20101124100000.txt

Somali pirates hijack Chinese semi-sub in Arabian Sea

<http://www.odin.tc/eng/articles/883-Somali-pirates-highjack-Chinese-semi-sub-in-Arabian-sea.asp>



MV *Tai An Kou*

Source: <http://www.shipspotting.com/gallery/photo.php?lid=1066408>

11月20日「ソマリアの海賊、セイシェル漁船をハイジャック」(Maritime Bulletin, November 20, 2010)

ソマリアの海賊は20日、セイシエルのマヘー島北方約240カイリの海域で、7人が乗った同国の漁船、FV *Faith* をハイジャックした。

記事要旨：セイシェル内務省の発表によれば、ソマリアの海賊は20日、セイシエルのマヘー島北

方約 240 カイリの海域で、同国の漁船、FV *Faith* をハイジャックした。該船には、7 人が乗り込んでいた。

記事参照 : Somali pirates seize 7 fishermen off Seychelles

<http://www.odin.tc/eng/articles/880-Somali-pirates-seize-7-fishermen-off-Seychelles.asp>

11月23日「国連安保理、ソマリア沖海賊対処決議を更新」(UN News Centre, November 23, 2010)

国連安全保障理事会は 23 日、ソマリア暫定政府との協力の下、加盟国及び地域機構に対して、ソマリア沖における海賊対処活動を遂行する権限付与を更に 12 カ月間延長する、安保理決議 1950 を全会一致で採択した。

記事要旨 : 国連安全保障理事会は 23 日、ソマリア沖の海賊対処に関する決議を全会一致で採択した。安保理決議 1950 は、ソマリア暫定政府との協力の下、加盟国及び地域機構に対して、ソマリア沖における海賊対処活動を遂行する権限付与を、更に 12 カ月間延長する。この決議には、2009 年 11 月の安保理決議 1897 と同様に、加盟国及び地域機構に対して、ソマリア領海内で、海軍戦闘艦や航空機を展開し、海賊の船舶やボート、武器及び関連装備を捕獲し、破壊するなどの、「あらゆる必要な手段」をとる権限付与が含まれている。

記事参照 : Security Council re-authorizes action against piracy off Somali coast

<http://www.un.org/apps/news/story.asp?NewsID=36851&Cr=piracy&Cr1>

備考 : 安保理決議 1950 ;

<http://daccess-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/GEN/N10/649/02/PDF/N1064902.pdf?OpenElement>

11月26日「ソマリアの海賊、マレーシア籍船をハイジャック」(The Star, November 30, 2010)

ソマリアの海賊は 26 日、マレーシア籍船の貨物船、MV *Albedo* (15,562DWT) を、ソマリア沿岸から約 900 カイリ離れたインド洋でハイジャックした。

記事要旨 : ソマリアの海賊は 26 日、マレーシア籍船の貨物船、MV *Albedo* (15,562DWT) を、ソマリア沿岸から約 900 カイリ離れたインド洋でハイジャックした。該船は、アラブ首長国連邦のジェベルアリ (Jebel Ali) からケニアのモンバサに向かって航行中であった。該船の乗組員は、パキスタン人、バングラデッシュ人、スリランカ人及びイラン人の計 23 人である。

記事参照 : Malaysian ship hijacked

<http://thestar.com.my/news/story.asp?file=/2010/11/30/nation/7526701&sec=nation>



MV *Albedo*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, November 29, 2010

🔗 トピック 🔗

母船、海賊グループに対する出撃前攻撃、そして BMP
～ソマリア海賊襲撃事案の最近の特徴～

“The monsoon season has ended. The Indian Ocean is calm again. For Somalia’s pirates, that means one thing: it is a busy time of year”. (The New York Times, November 9, 2010)

実際、*The New York Times* が指摘するように、10月からソマリアの海賊による襲撃事案が増え、それに伴ってハイジャックされる船舶も10月には5隻、11月には7隻となっている。現在、アデン湾、ソマリア沖には、EU艦隊、NATO艦隊を始め、日本、中国、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、オーストラリア、ロシアなどの各国海軍戦闘艦や海上哨戒機が展開し、海賊対処作戦や商船護衛任務を遂行しているが、襲撃事案やハイジャック事案は後を絶たない。以下は、最近の海賊襲撃事案の特徴を纏めたものである。(個々の事例の詳細は、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010年10月号、11月号(本号)の1.1 海洋治安を参照されたし。)

1. 最近の「母船」情報

最近の襲撃事案の特徴の1つは、襲撃海域がケニア沖、タンザニア沖、セイシェル沖、マダガスカル沖を含む、ソマリアの東部及び南部沿岸からこれまで以上に遠く離れた海域にまで拡大していることである。これは、こうした遠隔の海域にまで進出できる「母船」を使用していると見られるためである。以下は、最近の「母船」情報である。

NATO Shipping Centre によれば、「母船」として利用されているのは、主としてハイジャックした、漁船、小型船舶、あるいはダウ船などである。NATO Shipping Centre によれば、海賊は、襲撃海域を拡大すると共に、活動期間を延ばすために、しばしばダウ船などの母船を利用しており、これらの船は商船の航行にとって大きな脅威となっている。NATO Shipping Centre は、ソマリア沿岸から300カイリ以上離れた公海で、小型の船舶を視認したら、海賊の母船の可能性があると考えるべきであると警告している。

例えば、NATO Shipping Centre は10月15日、ソマリア沿岸から北東の東経65度付近の海域に、少なくとも1隻の母船が活動している。それによれば、この船は、2010年5月6日にセイシェル沖でハイジャックされたタイの漁船、FV *Tai Yuan 227* で、この船は引き続き、この海域で活動すると見られる。



FV *Tai Yuan 227*

Source: <http://www.shipping.nato.int/TaiYuan227>

11月16日付のNATO Shipping Centreの警報によれば、11月3日に3日朝、コモロからタンザニアのダルエスサラームに向けて航行中、ソマリアの海賊にハイジャックされた、コモロ籍船の小型客船、MV *Aly Zulfecar* は、海賊による洋上での襲撃のための母船として使用されると見られる。それによれば、該船は以前にも、母船として使用されたことがあり、ケニア・タンザニア沿岸からマダガスカル北端間の三角海域で運用されると見られる。NATO Shipping Centre は、この海域での小型船舶に注意するよう呼びかけている。



MV *Zulfecar*

Source: <http://www.shipping.nato.int/Zoulfecar>

韓国の水産会社所属でケニア籍船の漁船、FV *Golden Wave* が10月9日にケニア沖でソマリアの海賊にハイジャックされたが、該船も「母船」として利用されていると見られる。シンガポール籍船のLPGタンカー、MT *York* は10月23日、セイシェルに向けて航行中、ケニアのモンバサ東方約50カイリの海域で2隻の小型ボートに襲撃され、24日早朝、ハイジャックされたことが確認された。付近には、このハイジャック事案に関わったと思われる、韓国漁船、FV *Golden Wave* が視認された。11月16日付のNATO Shipping Centreの警報によれば、該船は12日現在、04°01S - 041°12E 付近にあり、南方に向かっているという。



FV *Golden Wave*

Source: <http://www.shipping.nato.int/GoldenWave>

11月16日付のNATO Shipping Centreの警報によれば、ハイジャックされた船名不明のダウ船が、0065E - 11~16Nの海域か、セイシェル南西付近の海域で「母船」として航行している。



Unnamed Dhow

Source: <http://www.shipping.nato.int/UnnamedDho>

また、ハイジャックされた大型船舶も「母船」として利用されることがある。日本の日之出郵船株式会社が運航するパナマ籍船の貨物船、MV *Izumi* (20,170DWT) が10月10日、ケニア沖でハイジャックされた。該船がハイジャックされた時、付近に以前行方不明になったトロール漁船がいたことが確認されている。この漁船はこの付近の海域でハイジャックされたと見られ、MV *Izumi* の襲撃にも使われた可能性があるという (NATO Shipping Centre, October 15, 2010)。MV *Izumi* も「母船」として利用されているようである。11月8日付けの EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release によれば、スペイン海軍コルベット、SPS *Infanta Cristina* は6日夜、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がチャーターしたモガディシュへの食料運搬船、MV *Petra 1* を護衛中、MV *Izumi* に乗った海賊から銃撃された。同艦は、人質となっている該船乗組員 (フィリピン人 20 人) を危険にさらさないために、反撃を最小限の自衛措置に止めた。MV *Izumi* は逃走した。また、EU 艦隊によれば、ソマリア近海で5日、海賊襲撃グループが MV *Izumi* から小型ボートに乗り換え、航行中の船舶を襲撃したのが確認されたという。

The MV *Izumi*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, October 11, 2010

2. 海賊グループに対する出撃前攻撃

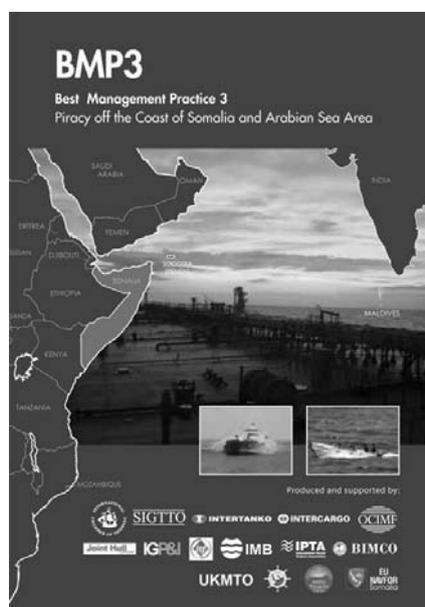
一方で、海賊襲撃グループ (Pirate Action Group: PAG) の活動が活発化し、襲撃件数が増えている中で、2つの対応措置が注目された。1つは、各国海軍による外洋に出る前の PAG の捕捉である。2010年3月頃から多くなった対応措置である。PAG は通常、大型ボート (whaler) 1隻と1~2隻の小型ボート (skiff) からなり、外洋ではこれを漁船などの「母船」が曳航している。最近では、EU

艦隊や NATO 艦隊は、ソマリア沿岸域で PAG を発見次第、停船させ、積んでいる武器・装備類を押収した上で（もつとも、PAG は EU 艦隊などの艦載ヘリに発見された場合、これら武器・装備類を海に投棄することが多い）、大型ボートを破壊し、小型ボートも PAG をソマリア沿岸に送り返すためのボートを除いて、破壊している。NATO Shipping Centre によれば、大型ボート（whaler）は長さ 10～12 メートルのオープン・ボートで、速力は 6～8 ノット程度という。小型ボート（skiff）は高速で、船外機（日本製が多い）を搭載している。

EU 艦隊は、こうした PAG に対する主な出撃前攻撃によって、海賊襲撃グループを外洋に出る前に抑えることになり、非常に有効な海賊対処法である、としている。拘束された海賊容疑者は通常の場合は、起訴に耐え得る証拠が不十分として、ボートに乗せて送り返されている。しかしながら、こうした対処方針は、“catch and release” とされ、海賊の再生産する措置として、海運業界の一部は批判的であるといわれる。（こうした PAG に対する主な出撃前攻撃例は、その都度、OPRF 海洋安全保障情報月報で紹介してきた。）

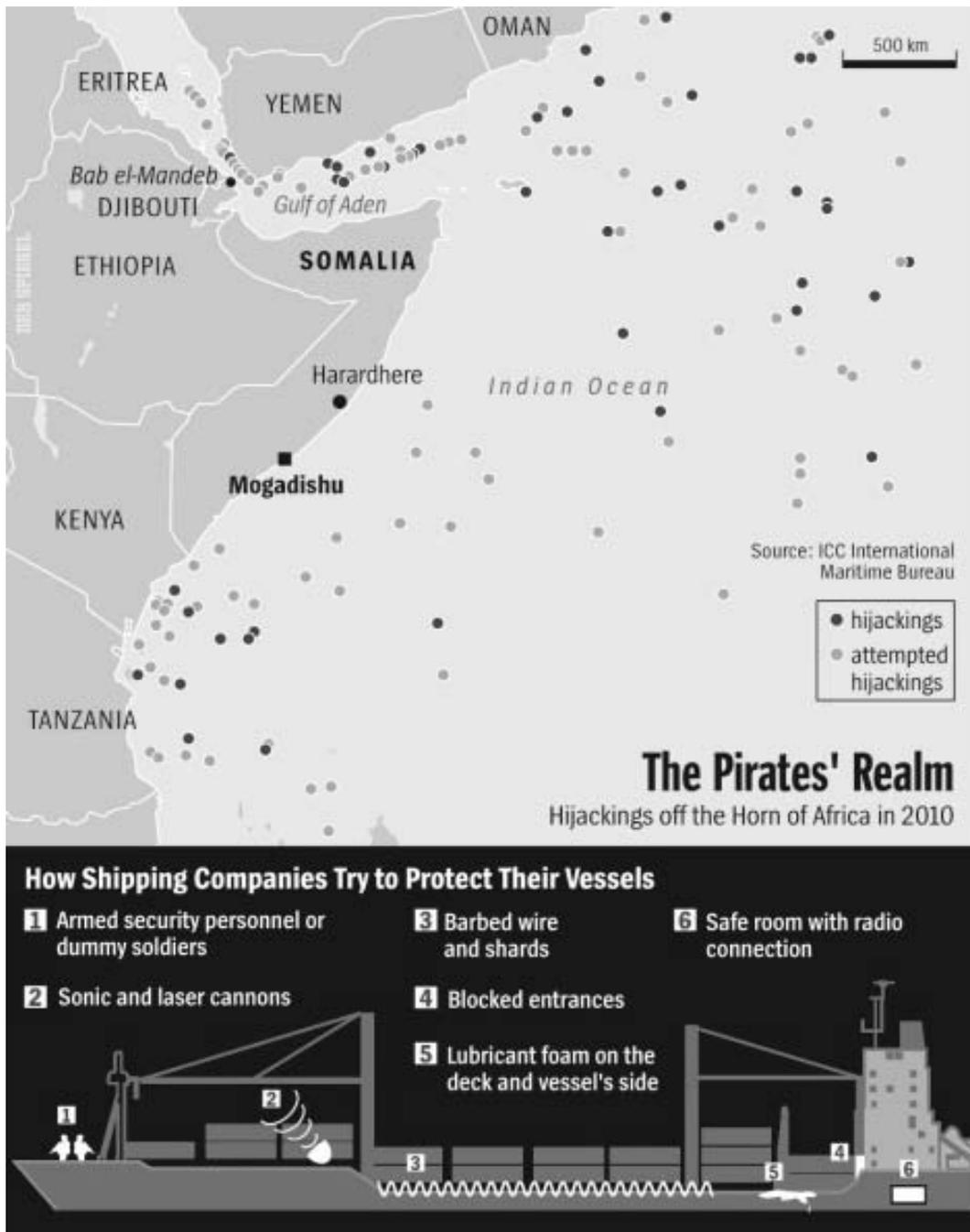
3. 海賊対処マニュアル、Best Management Practice (BMP)

もう 1 つは、襲撃された場合の船舶の自衛措置である。海運業界の海賊対処マニュアル、Best Management Practice (BMP) では、海賊に乗り込まれた場合、回避行動を取ると共に、乗組員の多くは船内の“citadel”（安全区画）に鍵をかけて閉じ籠もるなどの自衛措置とることが懲慥されている。こうした自衛措置によって、乗り込んだ海賊がハイジャックを諦めて逃亡し、付近を哨戒中の各国海軍戦闘艦に救出されるケースが増えてきている。また、海賊が逃亡しなかった場合には、武力による解放に繋がるケースもある（例えば、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 5 月号 1.1 海洋治安参照）。



BMP は以下から入手可能； http://www.mschoa.org/bmp3/Documents/BMP3%20Final_low.pdf

参考：2010年のソマリアの海賊による襲撃事案の状況と船舶の自衛措置



Source: Spiegel Online, November 23, 2010

(文責 上野英詞)

1.2 軍事動向

11月1日「ロシア、フランスの造船所と共同企業体創設」(RIA Novosti, November 1, 2010)

ロシアとフランスの造船所は1日、共同企業体を創設する協定に調印した。この協定は、懸案となっているフランス海軍の *Mistral* 級強襲揚陸艦購入に向けての重要な前進である。仏露両国は現在、フランスから1~2隻の *Mistral* 級強襲揚陸艦を購入すると共に、別に2隻をロシア国内で建造する2+2スキームについて交渉中であり、2010年中にも契約が調印されると見られている。

記事要旨：ロシアの United Shipbuilding Corporation (USC) は1日、フランスの軍用艦艇を建造する、Direction des Constructions Navales Services (DCNS) との間で、共同企業体を創設する協定に調印した。USC の会長によれば、この協定は、懸案となっているフランス海軍の *Mistral* 級強襲揚陸艦購入に向けての重要な前進である。仏露両国は現在、フランスから1~2隻の *Mistral* 級強襲揚陸艦を購入すると共に、別に2隻をロシア国内で建造する2+2スキームについて交渉中であり、2010年中にも契約が調印されると見られている。USC の会長は、「我々は、技術移転を含む、長期契約に調印した」と語っており、補給艦や北極向けの砕氷艦建造に関心を示している。一方、DCNS の議長は、あらゆる軍用艦艇を建造する用意があると語っている。

記事参照：Russian, French shipbuilders form consortium

http://en.rian.ru/military_news/20101101/161170512.html



Mistral 級強襲揚陸艦

Source: RIA Novosti, November 1, 2010

11月2日「ロシア海軍、戦闘艦・潜水艦の標準化による近代化を推進」(RIA Novosti, November 2, 2010)

2日付のロシアの RIA Novosti は軍事記者の評論を掲載し、ロシア海軍の建艦計画は徐々に活発化しつつあり、しかもその特徴は戦闘艦と潜水艦の標準化を最大限に追求していることで、これは30~35年前とは全く異なる特徴であるとして、戦闘艦も潜水艦も数種の基本となるプラットフォームと標準装備があり、機能に応じて各種の装備を搭載するという、標準化が進められている状況を解説している。

記事要旨：2日付のロシアの RIA Novosti は軍事記者の評論を掲載し、ロシア海軍の建艦計画は徐々に活発化しつつあり、しかもその特徴は戦闘艦と潜水艦の標準化を最大限に追求していることで、これは30~35年前とは全く異なる特徴であるとして、要旨以下の諸点を指摘している。

① ロシア海軍では、戦闘艦も潜水艦も数種の基本となるプラットフォームと標準装備があり、機能

に応じて各種の装備を搭載するという、標準化が進められている。潜水艦の場合、標準的な推進装置、ソナー及び電子機器を備え、主要兵装だけが異なっている。弾道ミサイル潜水艦、SSBNの場合はRSM-56 SS-NX-32 ミサイル搭載用サイロを装備しており、一方攻撃型潜水艦の場合は各種の巡航ミサイルが搭載できるようになっている。また、現在建造中の戦闘艦も、標準的な推進装置、ソナー及び電子機器を備えている。

- ② ロシア国防省高官や軍事専門家は、潜水艦戦力がロシア海軍の中核戦力であり、将来においても変わらない、と考えている。ロシア海軍は今後数年以内に、2種の核推進潜水艦と2種の通常型潜水艦を就役させることになっている。Project 955 *Borei* 級 SSBN は8隻が建造されることになっており、1番艦は現在、海上公試中で、他に3隻が建造中で、更に残りの4隻は今後5～6年以内に起工される計画である。*Borei* 級 SSBN 計画の成否は、搭載ミサイル、Bulava SLBM の開発の進展如何にかかっており、これが現在の最優先課題となっている。
- ③ ロシア海軍は今後数十年間、Project 885 *Yasen* (*Graney*) 級攻撃型原潜を運用することになる。1番艦の *Severodvinsk* は2010年夏に進水した。この重兵装で極めて高価な潜水艦は今後15年間で、15隻の Project 671 *Victor* 級、Project 945 *Sierra I* 級及び Project 949-A *Oscar II* 級を代替する。更に、2025年以降、老朽化する12隻の Project 971 *Akula* 級を代替することになっている。Project 885 潜水艦計画は現在、1隻が建造中で、更に6隻が今後6～7年以内に起工され、2025年までに10～12隻が建造されることになっている。
- ④ 他方、ロシア海軍は、新型の Project 677 *Lada* 級通常型潜水艦の開発に問題を抱えている。Project 877 *Paltus* (*Kilo*) 級が急速に老朽化しつつあることから、海軍は、Project 636-M (*Kilo* 級) の改造型の建造を余儀なくされ、2010年8月に黒海艦隊用の改造型1番艦の建造を開始した。海軍は今後10年間で、*Lada* 級の開発を進めながら、*Paltus* 級を改造型に代替し、結果的に、4～5隻の *Lada* 級、9～12隻の改造型、そして5～6隻の老朽化した *Paltus* 級を運用することになる。
- ⑤ 戦闘艦も老朽化が進み、全面的に更新する必要があるが、この20年間は潜水艦計画が優先されてきた。Project 20380 *Steregushchy* 級コルベットは、全面的な更新を目指して導入された初めての戦闘艦である。1番艦は既に就役し、更に1隻が進水し、3隻が建造中である。また、外洋型の戦闘艦として、Project 22350 *Admiral Sergei Gorshkov* 級フリゲートの建造が開始された。この艦はソ連崩壊後最初の戦闘艦であるが、建造開始後、この精巧で高価な戦闘艦の建造ペースでは、艦隊全体の更新が遅れることが次第に明らかとなった。そのため、計画の促進と共に、Project 11356 *Talwar* 級フリゲートの建造を開始することが決定された。ロシアは既に、*Talwar* 級フリゲートをインド海軍向けに数隻建造している。両級フリゲートには、次世代戦闘艦としての装備と主要兵装を含む、互換性のある構成部品が使われている。今後10年以内に、8隻の *Gorshkov* 級と8隻の *Talwar* 級が就役することになっている。ロシア海軍は、今後20年以内に30隻のフリゲートと30隻のコルベットを就役させる計画である。更に、ロシア海軍では、満載排水量1万トン級の次世代駆逐艦の設計がほぼ完了しており、この新型艦も標準的なミサイル発射装置、情報統制システムやその他の互換性のある装備を搭載することになっている。(*Gorshkov* 級フリゲート1番艦の進水については、OPRF 海洋安全保障情報月報2010年10月号1.2 軍事動向参照。)
- ⑥ これらのコルベット、フリゲート及び次世代駆逐艦が、今後20～30年間のロシア海軍の中核戦力となろう。これらの新型艦が導入されなければ、フランスから *Mistral* 級強襲揚陸艦を取得したり、現用空母、*Admiral Kuznetsov* を改装したり、あるいは新型空母を建造したりしても、戦力

的には無意味であろう。

記事要旨：Russian Navy to standardize its warships and submarines

<http://en.rian.ru/analysis/20101102/161183586.html>

11月2日「中国南海艦隊、南シナ海で実働演習」(PLA Daily, November 4, 2010)

中国海軍南海艦隊は2日、年次実働・実弾演習、「蛟竜 2010」(“Dragon 2010”)を南シナ海で実施した。今回の演習には、海軍の海兵旅団から約1,800人の人員、100以上の各種の武器、装備が参加した。演習は、揚陸戦闘の全課程、即ち機動集結、乗艦・輸送、強襲揚陸及び上陸地点の確保・保持の4つの段階を全て演練するものであった。

記事要旨：中国海軍南海艦隊は2日、年次実働・実弾演習、「蛟竜 2010」(“Dragon 2010”)を南シナ海で実施した。今回の演習には、海軍の海兵旅団から約1,800人の人員、武装ヘリコプター、掃海艦、駆潜艇、輸送艦、水陸両用装甲車、揚陸艦、強襲艇及び各種の誘導兵器など、100以上の各種の武器、装備が参加した。演習は、揚陸戦闘の全課程、即ち機動集結、乗艦・輸送、強襲揚陸及び上陸地点の確保・保持の4つの段階を全て演練するものであった。演習には、中国の国防大学、海軍指揮学院、空軍指揮学院に留学中の70カ国以上の外国人将校200人余が観戦した。演習終了後、彼らは、演習司令部要員と演練項目について議論した。

記事参照：Chinese Marine Corps kicks off “Dragon 2010” live-shell drill

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-11/04/content_4205595.htm



演習の様子

Source: http://japanese.china.org.cn/photos/2010-11/03/content_21265937.htm

11月3日「米サイバー・コマンド、全面稼働」(U.S. Department of Defense, Office of the Assistant Secretary of Defense (Public Affairs), News Release, November 03, 2010)

米国防省は3日、サイバー・コマンドが3日から全面稼働状態 (full operational capability: FOC) に入ったと発表した。同コマンドは、国防省のネットワークを運用し、防衛する責任を有する。

記事要旨：米国防省は3日、サイバー・コマンドが3日から全面稼働状態 (full operational capability: FOC) に入ったと発表した。同コマンドは、国防省のネットワークを運用し、防衛する責任を有する。FOCの重要な任務には、a Joint Operations Center の設置と、2つの既存の組織、the Joint Task Force for Global Network Operations と the Joint Functional Component Command for Network Warfare からの人員と機能の移管が含まれる。同コマンドの整備は、FOCが最終目標ではなく、国

防省は、ネットワークを運用し、効果的に防衛していくために、能力の整備を継続していく。同コマンドは、戦略コマンド (the U.S. Strategic Command) 傘下で、2010年5月21日に初期運用能力に達した。

記事参照 : Cyber Command Achieves Full Operational Capability

<http://www.defense.gov/Releases/Release.aspx?ReleaseID=14030>

【関連記事】

「サイバー・コマンド、世界のネットワーク攻撃権限を要求」(The Washington Post, November 6, 2010)

サイバー・コマンドは、米国の利益を護るために、世界中のコンピューター・ネットワークに対する攻撃権限を要求している。

記事要旨 : サイバー・コマンドは、米国の利益を護るために、世界中のコンピューター・ネットワークに対する攻撃権限を要求している。同コマンド司令官で国家保全局 (the National Security Agency) 長官でもある、アレキサンダー 将軍 (Gen. Keith B. Alexander) は、サイバースペースにおける作戦の全スペクトラムに対応するために、十分な運用権限を求めている。

記事参照 : Pentagon's Cyber Command seeks authority to expand its battlefield

http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/11/05/AR2010110507304.html?wpisrc=nl_headline

11月8日「ベトナム・カムラン湾基地、南シナ海の重要基地に」(The Telegraph, November 8, 2010)

ベトナムのグエン・タン・ズン首相は10月30日の記者会見で、「カムラン湾海軍基地施設で、あらゆる外国の海軍戦闘艦に対して役務を提供する用意がある」と述べたが、8日付の英紙、*The Telegraph* は、外国海軍艦艇がカムラン湾基地にアクセスすることができれば、南シナ海において中国に対抗する上で、重要な基地となりつつある、と報じている。

記事要旨 : ベトナムのグエン・タン・ズン首相は10月30日の東アジアサミット終了後の記者会見で、「ベトナムは、カムラン湾海軍基地施設で役務支援を必要とする、潜水艦を含むあらゆる外国の海軍戦闘艦に対して、役務を提供する用意がある。当該国は、役務に見合った費用を支払うことになろう」と述べた。8日付の英紙、*The Telegraph* は、外国海軍艦艇がカムラン湾基地にアクセスすることができれば、南シナ海において中国に対抗する上で、重要な基地となりつつある、と報じている。ロシアは、2010年初めに調印した13億ポンドに上る防衛強力の一環として、カムラン湾基地施設を再建する計画である。これは、増大する中国の軍事力に対抗する一連の地域的取り決めの1つである。ベトナムはまた、10月にインドとの間でも防衛協力を合意しており、インドは、海軍の艦艇補修能力の強化に協力することになっている。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2010年10月号 1.2 参照)

記事参照 : Vietnam offers navy base to foil China

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/asia/vietnam/8116192/Vietnam-offers-navy-base-to-foil-China.html>



Cam Ranh Bay, 180 miles northwest of Ho Chi Minh City, would stand ready to service ships and submarines 'from all countries'.

Source: The Telegraph, November 8, 2010

11月10日「米海軍作戦部長、南シナ海での中国海軍との協調を呼びかけ」(GOVERNMENT EXECUTIVE MAGAZINE, November 11, 2010)

米海軍のラフェッド作戦部長は10日の講演で、中国海軍の増強ぶりについて、中国海軍は、増強に併せて運用パターンを変えつつあり、シーレーンや資源確保などから自国に重要だと見なされる海域ではより活発に行動している、ソマリア沖と同じような協力関係を、南シナ海や他の海域でも行うべきだ、などと述べた。

記事要旨：米海軍トップのラフェッド作戦部長は10日、ワシントンで講演し、中国海軍の増強ぶりについてコメントを求められ、要旨以下のように述べた。

- ① 歴史が示すように、その国の経済力が特に外国との交易によって増大するにつれ、当該国の海軍力もそれに伴って増大する。ポルトガルも、オランダも、英国も、そして米国もそうだった。中国もその海軍力を増強する過程にある。しかも中国海軍は、増強に併せて運用パターンを変えつつある。シーレーンや資源確保などから自国に重要だと見なされる海域ではより活発に行動している。
- ② 中国は透明性を高めなければならないが、中国海軍との協調も重要である。ソマリア沖では各国が協力して海賊対処活動を行っているように、同じような協力関係を、南シナ海や他の海域でも行うべきだ、と考えている。

記事参照（ラフェッド作戦部長講演記録）：

<http://www.navy.mil/navydata/people/cno/Roughead/Speech/101111-govexec-roughead.pdf>

11月16日「フィリピン・ベトナム、防衛協力覚書に調印」(NewsBalita.com, November 18, 2010)

フィリピン国防省は16日、フィリピン、ベトナム両国国防相が10月25日にハノイで、両国間の防衛協力に関する覚書(MOA)に調印したことを明らかにした。

記事要旨：フィリピン国防省が16日に明らかにしたところによれば、フィリピン、ベトナム両国国防相は、10月25日にハノイで、両国間の防衛協力に関する覚書(MOA)に調印した。フィリピ

ン国防省によれば、MOA の狙いは両国国防省間の対話と協力関係を強化することであり、両国は、MOA を具体化するために専門家グループを立ち上げることになっている。

記事参照 : Vietnam and Philippines Sign Defence Agreement

<http://www.newsbalita.com/vietnam-and-philippines-sign-defense-agreement/>

11 月 17 日「米海軍強襲揚陸艦、香港寄港」(BBC News, November 17, 2010)

米海軍強襲揚陸艦、USS *Essex* は 17 日、香港に寄港した。2,200 人の将兵と共に、4 日間滞在する。

記事要旨 : 米海軍強襲揚陸艦、USS *Essex* は 17 日、香港に寄港した。中国は 2010 年 2 月、米国の台湾への武器売却を理由に、米国との軍事交流を停止した。10 月には、空母、USS *George Washington* の香港寄港が拒否されたという。USS *Essex* は *Essex* 両用即応グループの旗艦で、2,200 人の将兵と共に、4 日間滞在する。これまでの米海軍戦闘艦の香港寄港では、香港政庁指導部や中国軍の代表が米艦に招待されるのが常だが、今回は招待されなかった。

記事参照 : US navy Hong Kong visit hints at warmer China ties

<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11772127>

11 月 20 日「中国空母『施琅』(旧名『ワリヤーグ』、改修完了間近?)」(The Australian, November 20, and Daily Mail Post, November 24, 2010)

西側の専門家筋によれば、大連の造船所で改修中の中国空母、「施琅」(the *Shi Lang*) (旧名「ワリヤーグ」) の改修が完了間近になっているようである。施琅は 2011 年か 2012 年に海上に出ると見られる。

記事要旨 : 西側の専門家筋によれば、大連の造船所で改修中の中国空母、「施琅」(the *Shi Lang*) (旧名「ワリヤーグ」) の改修が完了間近になっているようである。米国の中国軍事問題専門家で、シンクタンク、the International Assessment and Strategy Centre の R. フィッシャ (Richard Fisher) は、「施琅」は 2011 年か 2012 年に海上に出ると見られるとして、「作業の様子を定期的に写真で見ると、作業テンポが早まっている。アイランドは大幅に改修されており、最新の中国製レーダーシステムも装備されている。エンジンについては、ほとんど知ることはできないが、作業の様子から取り付けが進んでいるようである」と述べている。「施琅」は恐らく、訓練用のプラットフォームとして使用されると見られる。「施琅」について、中国は公式には何も言及していないが、大連造船所での作業の様子は、離れた場所から写真撮影が可能である。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2009 年 5 月号 1.2 ホット・トピックも参照されたし。)

記事参照 : First Chinese aircraft carrier nears completion

<http://www.theaustralian.com.au/news/world/first-chinese-aircraft-carrier-nears-completion/story-e6frg6so-1225956776506>

First Chinese Aircraft Carrier almost Complete

<http://www.dailymailpost.com/?p=677>



「施琅」近影

Source: http://www.varyagworld.com/portfolio.php?cat_id=6

11月27日「中国海軍病院船、『和諧使命－2010』任務を終え帰国」（解放軍報電子版、November 3, 27, 2010）

8月31日に浙江省舟山を出発した中国海軍の病院船、「和平方舟」は、「和諧使命－2010」の任務を終え、11月26日に帰国した。病院船はアデン湾で海賊対処を実施中の中国海軍部隊に医療活動を提供した後、ジブチ、ケニア、タンザニア、セイシエルのアフリカ5カ国で活動し、またバングラデシュで医療活動を実施した。

記事要旨：8月31日に浙江省舟山を出発した中国海軍の病院船、「和平方舟」は、「和諧使命－2010」の任務を終え、11月26日に帰国した。病院船はアデン湾で海賊対処を実施中の中国海軍部隊に医療活動を提供した後、ジブチ、ケニア、タンザニア、セイシエルのアフリカ5カ国で活動し、またバングラデシュで医療活動を実施した。帰国に際して、海軍司令員、呉勝利と海軍政治委員、劉曉河を代表して、海軍副政治委員の徐建中が出迎えた。徐は、「今次の任務は中国海軍の病院船が実施した、初の海外における人道支援任務であり、「海軍の『多様な軍事任務』の遂行であり、海上のロジスティクス能力の検証である」とした上で、「国際義務を積極的に履行する責任大国のイメージを示した」と強調した。

記事参照：原文は中国語

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/03/content_42186.htm

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-11/27/content_44263.htm

11月28日「米韓両国軍、黄海の南部海域で合同軍事演習実施」（STRATFOR Global Intelligence, November 23, U.S. Pacific Command News, November 29, and American Forces Press Service, December 1, 2010）

北朝鮮の砲撃に対応する形で、米韓両国軍は、11月28日から12月1日まで、黄海の南部海域で合同軍事演習を実施した。この演習の目的は、防衛的性格のもので、以前から計画されていたものであるが、米韓同盟の重要性和地域の安定と安全保障に対する米国のコミットメントを誇示するものである。この演習には、米側から空母、USS *George Washington* (CVN 73) などが参加し、韓国側から数隻の戦闘艦が参加した。

記事要旨：北朝鮮は23日午後、韓国が海上における南北境界線と定める北方限界線（NLL）に近

接する韓国西方沖の延坪島と周辺海域を砲撃し、約 50 発が島に着弾し、民家が炎上し、また韓国軍兵士や住民に死傷者がでるなどの被害が出た。韓国軍はこれに応戦し、約 80 発を発射し、周辺空域に F-16 戦闘機を派遣し、韓国軍の警戒態勢を最高度に引き上げた。

これに対応する形で、米韓両国軍は、11月28日から12月1日まで、黄海の南部海域で合同軍事演習を実施した。11月29日付の米太平洋軍の Pacific Command News や12月1日付の米国防省の American Forces Press Service の報道によれば、この演習の目的は、防衛的性格のもので、以前から計画されていたものであるが、米韓同盟の重要性と地域の安定と安全保障に対する米国のコミットメントを誇示するものである。この演習には、米側から空母、USS *George Washington* (CVN 73)、誘導ミサイル駆逐艦、USS *Cowpens* (CG 63)、USS *Lassen* (DDG 82)、USS *Stethem* (DDG 63) 及び USS *Fitzgerald* (DDG 62) が参加し、韓国側から数隻の戦闘艦が参加した。また、両国の空軍部隊も参加した。演習では、水上戦闘、対潜戦闘から防空戦闘に至る、戦闘の全ての局面における作戦遂行能力、即応態勢、インターオペラビリティが演練された。米海軍第70任務部隊のクロイド司令官は、今回の演習を通じて、最高度の戦闘任務から人道支援や自然災害対処までのあらゆる任務を遂行する米韓合同軍事能力に高い自信を得たと、演習の成果を強調している。

記事参照：North Korean Artillery Attack on a Southern Island

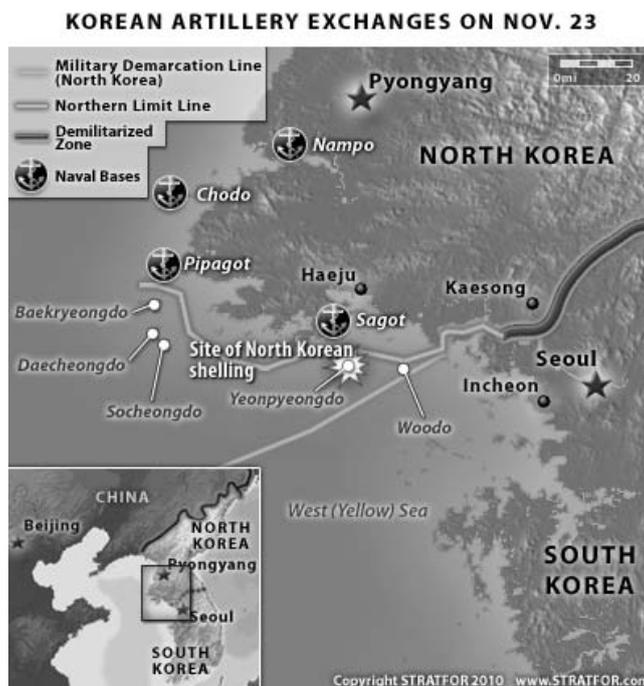
http://www.stratfor.com/analysis/20101123_north_korean_artillery_attack_southern_island?utm_source=RedAlert&utm_medium=email&utm_campaign=101123&utm_content=readmore&elq=b86140567ed14ba38e53e24727c2de61

George Washington Strike Group Begins Exercise with Republic of Korea

http://www.pacom.mil/web/Site_Pages/Media/News%20201011/20101129-WG%20Strike%20Gp%20Begins%20Exercise%20with%20ROK.shtml

Naval Exercise Wraps Up In South Korea

http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=57489



Source: STRATFOR Global Intelligence, November 23, 2010

1.3 海洋境界

11月6日「ベトナム、オンライン地図サービスから南シナ海の『U字型』ラインの削除を中国に要求」(Thanh Nien News, November 6, 2010)

ベトナムは5日、東海(南シナ海)の80%以上を中国の領域とする「U字型」ラインを、新たに始めたオンライン地図サービスの地図から削除するよう、中国に要求した。

記事要旨: ベトナムは5日、東海(南シナ海)の80%以上を中国の領域とする「U字型」ラインを、新たに始めたオンライン地図サービスの地図から削除するよう、中国に要求した。ベトナム外務省の報道官は、中国国家測量地図局(The China's State Bureau of Surveying and Mapping)が2つのウェブサイトのオンライン地図サービスの地図に the nine-dotted line を記入することで、西沙諸島と南沙諸島に対するベトナムの主権、及び200カイリのEEZに対するベトナムの主権的権利と管轄権を侵害した、と非難した。

2つのウェブサイト(中国語)は、www.tianditu.cn、www.chinaonmap.cn である。

記事参照: Vietnam demands China removes illegal dotted line on online map

<http://www.thanhniennews.com/2010/Pages/20101106120629.aspx>

11月16日「中国の最新鋭漁業監視船、東シナ海へ処女航海」(Xinhua, November 16, 2010)

中国の最新鋭漁業監視船、「魚政310」は16日、広州市を出港して東シナ海に向けて20日間の処女航海を開始した。農業省魚政局に所属する「魚政310」は、排水量2,580トン、乗員60人、最高速度は漁業監視船としては最速の約25ノット、2機のZ-9Aヘリが搭載可能で、ブロードバンド衛星通信システム、光電追跡システムを装備している。

記事要旨: 中国の最新鋭漁業監視船、「魚政310」は16日、広州市を出港して東シナ海に向けて20日間の処女航海を開始した。農業省魚政局に所属する「魚政310」は、排水量2,580トン、乗員60人、最高速度は漁業監視船としては最速の約25ノット、2機のZ-9Aヘリが搭載可能で、ブロードバンド衛星通信システム、光電追跡システムを装備している。魚政局の李建華局長は、「この監視船の就役は、中国の海洋法執行活動における画期をなすもので、洋上と上空からの監視が可能となった」と述べた。李局長によれば、中国は、こうした漁業監視船を更に建造していく計画である。

記事参照: New Chinese fishery patrol vessel sets out for East China Sea

http://news.xinhuanet.com/english2010/china/2010-11/16/c_13609300.htm



「魚政310」

Source: http://japanese.china.org.cn/politics/txt/2010-11/30/content_21449761.htm

【関連記事】

「中国漁業監視船、尖閣諸島を巡航」(The Japan Times, Kyodo News, November 29, 2010)

中国の2隻の漁業監視船、「漁政310」、「漁政201」が28日朝、尖閣諸島の大正島北西約44キロの接続水域で視認された。2隻は、尖閣諸島の日本の領海外を巡航した。

記事要旨：海上保安庁は明らかにしたところによれば、中国の2隻の漁業監視船、「漁政310」、「漁政201」が28日朝、尖閣諸島の大正島北西約44キロの接続水域で視認された。2隻は、尖閣諸島の日本の領海外を巡航した。海保の巡視船は、日本の領海に入らないよう警告した。この2隻は、20日に尖閣諸島を巡航したのと同じ監視船である。

記事参照：Chinese ships return to Senkakus

<http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/nn20101129a4.html>



「漁政201」

Source: http://japanese.china.org.cn/politics/txt/2010-11/30/content_21449761.htm

1.4 外交・国際関係

11月4日「北方領土の戦略的価値—ロシア専門家の見解」(Eurasia Daily Monitor Volume: 7 Issue: 200, The Jamestown Foundation, November 4, 2010)

在モスクワの防衛問題専門家、Dr. Pavel E. Felgenhauer は、米シンクタンク、The Jamestown Foundation の Eurasia Daily Monitor に、“The Kurile Islands: a Key to Russia’s Maritime Nuclear Strategy”と題する論評を寄稿し、北方領土の戦略的価値について、以下のように述べている。ロシア海軍は、太平洋海域に展開する最新型の *Borey* 級 SSBN を護衛するために十分な攻撃型原潜、SSN と水上戦闘艦を持っていない。唯一の安全な選択肢は、千島列島に護られて半ば閉鎖されたオホーツク海への展開である。しかしロシアは、千島列島を維持するためには、現地経済を発展させるための膨大な投資と日本からの支援を必要としている。日本からの支援の見返りは、歯舞諸島と色丹島の返還ということになる。モスクワは、この取引を積極的に推し進めてくると見られるが、国後島と択捉島の返還は論外であろう。

記事要旨：在モスクワの防衛問題専門家、Dr. Pavel E. Felgenhauer は、米シンクタンク、The Jamestown Foundation の Eurasia Daily Monitor に、“The Kurile Islands: a Key to Russia’s Maritime Nuclear Strategy”と題する論評を寄稿し、北方領土の戦略的価値について、歯舞、色丹の2島返還の可能性に言及して、要旨以下のように述べている。

① 国後島と択捉島は、オホーツク海と太平洋を隔てる千島列島の南端に位置し、その東側に位置す

る歯舞諸島、色丹島とは、軍事戦略的価値が異なる。ロシアは、有事において、千島列島の各海峡に機雷を敷設し、オホーツク海を弾道ミサイル原潜、SSBNの聖域とするであろう。

- ② 冷戦終焉後、千島列島の戦略的価値が低下したように思われるが、必ずしもそうではない。最近改修され、2020年か2025年までに配備される、6隻の *Delta-4* 級 SSBN は、1隻の旧型 *Delta-3* 級 SSBN と共に、バレンツ海に基地を置く北洋艦隊に所属する。太平洋艦隊には現在、4隻の *Delta-3* 級 SSBN がカムチャツカ半島のヴィリユチンスク (Vilyuchinsk) 海軍基地に配備されているが、2015年までには全て廃棄されることになっている。しかしその後、最新型の *Borey* 級 SSBN の1番艦、*Yury Dolgoruky* が新型弾道ミサイル、*Bulava SS-NX-30* を搭載して、太平洋艦隊に配備されることが明らかになっている。そのための施設が既に、ヴィリユチンスク基地に完成しており、更に *Borey* 級 SSBN が配備されると見られる。
- ③ ロシア海軍は、太平洋海域に展開する最新型の *Borey* 級 SSBN を護衛するために十分な攻撃型原潜、SSN と水上戦闘艦を持っていない。唯一の安全な選択肢は、千島列島に護られて半ば閉鎖されたオホーツク海への展開である。しかしロシアは、千島列島を維持するためには、現地経済を発展させるための膨大な投資と日本からの支援を必要としている。日本からの支援の見返りは、歯舞諸島と色丹島の返還ということになる。モスクワは、この取引を積極的に推し進めてくると見られるが、国後島と択捉島の返還は論外であろう。
- ④ 2島返還でも、豊富な漁業資源やその他の資源を失うことになり、また戦後の国境線を書き換える「前例」を作ることになるが、ロシアは民主国家ではなく、必要ならクレムリンは躊躇しないと見られる。

記事参照：The Kurile Islands: a Key to Russia's Maritime Nuclear Strategy

http://www.jamestown.org/programs/edm/single/?tx_ttnews%5Btt_news%5D=37127&tx_ttnews%5BbackPid%5D=484&no_cache=1

1.5 海運・造船・港湾

11月5日「世界のトップ海運ハブ、ロンドンからシンガポールへ？」(Shiptalk, November 5, 2010)

世界のトップ海運ハブとしてのロンドンの地位は、シンガポールや上海などのアジア勢から脅かされつつある。シンガポールには最近、新たな海運関係の事務所が開設されており、シンガポールは海運業と海運サービス業務の両面で極めて強力な存在になっている。しかし一方で、海運業の首都として数世紀にわたって培われてきたロンドンの強みは揺るぎそうにもないと見る、専門家も多い。更に、シンガポールは、特に上海からの挑戦を受けている。

記事要旨：世界のトップ海運ハブとしてのロンドンの地位は、シンガポールや上海などのアジア勢から脅かされつつある。シンガポールには最近、新たな海運関係の事務所が開設されている。英国の Shipowners' P&I Club は初めての海外事務所として、シンガポールにアジア事務所を開設した。世界的な船舶仲買人、Clarksons は、乾貨物仲買チームを香港からシンガポールに移した。Swiss Re も、海上再保険部門を香港からシンガポールに移した。また、Rolls Royce は2009年に、海運業務のグローバル本部をロンドンからシンガポールに移している。2010年初めには、船舶仲買人、Howe Robinson も合同本部をロンドンからシンガポールに移している。英国海運業界団体、Maritime UK

のペン (Jeremy Penn) 副議長は、シンガポールは海運業と海運サービス業務の両面で極めて強力な存在になっている、と指摘している。シンガポールは、政治的に安定しており、また強力かつ安定した法的システムも整備されている。ノルウェー、ロンドンあるいは米国に比して、シンガポールの強みは、外国の海運会社に対して政府が認めているインセンティブにある。Marco Polo Shipping や Mercator Lines などの海運会社は既に、シンガポールの法人税免税スキームの恩恵を受けている。海運業界の一部は、英国政府の法人税増税の動きやその他の財政措置が海運業界のロンドン脱出を加速するかもしれない、と主張している。

しかし一方で、海運業の首都として数世紀にわたって培われてきたロンドンの強みは揺るぎそうにもないと見る、専門家も多い。英国の Braemar Shipping Services のキッドウエル (James Kidwell) 財政部長は、「ここには、船舶仲買業務のみならず、法務、保険、銀行、船舶登録など、膨大な知識と経験が蓄積されており、一夜にして衰退するものではない」と指摘している。前出のペン副議長も、アジア向けの航路情報の一部は現地時間の午後に通報されるようになったが、貨物市場の大部分は依然としてヨーロッパ時間を使用しており、また「英国の法律に準拠し、ロンドンでの仲介を求める傾向も大きな強みであり、巨大な金融センターに隣接しているもの有利である」と指摘している。更に、シンガポールは、特に上海からの挑戦を受けている。ロンドンの Norton Rose の運輸部門の責任者、テオチャリ (Harry Theochari) は、「シンガポールが主要な海運ハブになることは間違いないが、ロンドンに取って代わることはないであろう。シンガポールが直面している最大の問題は上海の発展である。もし私が賭博師なら、私の掛け金を上海に賭けるであろう」と述べている。

記事参照 : Is Shipping Crown Heading East?

<http://www.shiptalk.com/?p=6381>

1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

11月2日「韓国、南西部沿岸沖に大規模な海上風力発電タービン設置」(The Chosun Ilbo, November 3, 2010)

韓国知識経済省は2日、韓国南西部沿岸沖に、2019年までに原子力発電所2基に匹敵する2,500メガワットの発電能力を持つ、風力発電施設を建設すると発表した。計画によれば、政府と民間を合わせて9兆2,000億ウォン(約6,700億円)の資金を投資する。政府は将来的に、海上風力発電能力で世界3大国の1つになることを目指している。

記事要旨：韓国知識経済省は2日、韓国南西部沿岸沖に、2019年までに原子力発電所2基に匹敵する発電能力を持つ、風力発電施設を建設すると発表した。計画によれば、政府と民間を合わせて9兆2,000億ウォン(約6,700億円)の資金を投資する。政府は将来的に、海上風力発電能力で世界3大国の1つになることを目指している。

第1段階の計画では、2013年までに、全羅北道の扶安と全羅南道の霊光の沖合に、5メガワットの発電能力を持つ海上風力発電タービン20基を設置し、100メガワットの発電を目指す。その後、2016年までに900メガワット、2019年までには2,500メガワットに発電能力を徐々に拡大する。発電された電力は、全羅北道のゴチャン発電所とセマングム変電所を経て、全国に送られる。

知識経済省は、韓国電力(KEPCO)や韓国水力原子力(Korea Hydro and Nuclear Power)など

で構成される協議会を通じ、計画実現に向けて準備を加速する意向である。知識経済省は、済州道やその他の地域についても、小型の海上風力発電所建設計画を検討している。知識経済省高官は、「海上風力発電は環境破壊も少なく、住民の不満も小さく、また大規模な発電所建設もそれほど難しくない。そのため、造船工業、重工業、海上プラント建設、更には情報通信技術などの関連産業を動員できれば、世界的な競争力を早期に確保できる」と述べている。

記事参照 ; Korea to Build Massive Offshore Wind Farms

http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2010/11/03/2010110300765.html

11月4日「ミャンマー、タイ南部国境地域に経済特区建設」(BBC News, November 4, 2010)

ミャンマーは4日、タイ南部国境地域のダウエイにある深水港周辺に最大6万4,000ヘクタールの面積を持つ同国初の経済特区 (Special Economic Zone: SEZ) を建設する、と発表した。

記事要旨 : ミャンマーは4日、タイ南部国境地域のダウエイ (Dawei) にある深水港周辺に最大6万4,000ヘクタールの面積を持つ同国初の経済特区 (Special Economic Zone: SEZ) を建設する、と発表した。タイ政府との間で、タイ西部地域と連結する鉄道と道路を建設する、インフラ開発計画に合意している。ダウエイ SEZ には、水力発電所、石油精製プラント、粗鋼生産施設が建設される。Italian-Thai Development (ITD) と the Burmese Port Authority との間で、総額134億米ドルの開発計画協定が結ばれており、10年間での完成を目指している。ITD は投資パートナーを募っており、韓国、中国、インドが関心を示している。同国のタン・シュエ国家平和開発評議会議長は9月に中国の深圳を視察しており、ダウエイ SEZ は深圳に類似したものになると見られる。

記事参照 : Burma to build its first Special Economic Zone

<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11692574>

11月26日「台湾、休業マグロ漁船の大西洋への『移管』を要請—大西洋マグロ類保存国際委員会パリ特別会合」(AFP, November 26, 2010)

台湾では、ソマリアの海賊による脅威のため、メバチ・マグロ漁船141隻の内、66隻がインド洋への出漁を取り止めている。このため、台湾は、パリで開催された大西洋マグロ類保存国際委員会第17回特別会合(年次会合)に提出した文書で、業界の損失を補うために、2010年と2011年に15隻の休業マグロ漁船をインド洋から大西洋に「移管」することを要請した。

記事要旨 : パリで開催中(17日~27日)の大西洋マグロ類保存国際委員会 (the International Commission for the Conservation of Atlantic Bluefin Tuna: ICCAT) 第17回特別会合(年次会合)に出席している台湾代表は、委員会に提出した文書で、ソマリアの海賊による脅威のため、メバチ・マグロ漁船141隻の内、66隻がインド洋への出漁を取り止めていることを明らかにした。海賊の脅威は、台湾漁民の生命を脅かし、業界に深刻な影響を及ぼしている。実際、2009年以来、3隻の台湾漁船がソマリアの海賊にハイジャックされている。2009年4月6日に FV *Win Far 161* (「穩發 161」) がハイジャックされ、2010年2月11日に解放された。2010年3月31日に FV *Jin Chun Tsai No. 68* (「日春財 68 號」) が、5月6日に FV *Tai Yuan No. 227* (「泰源 227 號」) がそれぞれハイジャックされ、依然、乗組員と共に拘留されたままである。このため、台湾は、委員会への提出文書で、業界の損失を補うために、2010年と2011年に15隻の休業マグロ漁船をインド洋から大西洋に「移管」することを要請している。また、文書は、海賊問題が解決すれば、あるいは移管期限が来れば、これらの漁船をインド洋に戻す、としている。47カ国とEU、台湾が加盟するICCATは、消費される全て

の種類のマグロを含む、大西洋と地中海における操業規則と漁獲量を決定する。

記事参照 : Piracy sidelines third of Taiwan's Indian Ocean tuna fleet

http://news.yahoo.com/s/afp/20101126/sc_afp/environmentfishtunataiwansomaliapiracy

備考 : パリ会合の結果については、以下の水産庁 HP 参照。但し、台湾の要請が認められたかどうかは不明。http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kokusai/101128_1.html

2. 情報分析

「尖閣漁船衝突事件：中国外交・内政の視点から」

海外の視点では、尖閣諸島（中国名：釣魚島）漁船衝突事件における対日圧力の展開は、南シナ海「核心利益」論、東アジア海洋における解放軍の軍事力誇示と共に、中国の対外姿勢の強硬化を示す現象として受け止められている。このことは、『海洋安全保障情報定期報・中国の海洋活動 2010-3』でも紹介した。

それでは、尖閣漁船衝突事件をめぐって、中国ではどのような議論があるのだろうか。中国の対外姿勢が強硬化するとみる海外の論調は、中国ではどのように受け止められ、どのような反応が出ているのだろうか。

中国からみた尖閣漁船衝突事件：日本の国内政治要因

2010年9月8日、尖閣諸島付近の海域において、中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突し、石垣島の海上保安部は同船の船長を逮捕した。9月19日に船長の勾留延長が決まると、中国の強硬な対日姿勢はエスカレートした。9月23日、温家宝首相は国連で演説を行い、主権問題において「中国は決して譲歩したり妥協したりしない」と強調していた。

船長の勾留延長について、筆者は北京の中国人研究者からメールを受け取った。「これまでは、釣魚島/尖閣諸島の周辺海域では、中国人漁民を追い返し、逮捕してもすぐに強制送還するのが暗黙の通例だった。菅政権が通例に反してこうした措置をとった理由は何か」。この中国人研究者は、中国の強硬な対日姿勢がエスカレートするなかで、つとめて冷静に、菅政権の対応の真意を尋ねてきたのである。

中国メディアでは、中国人船長の逮捕・勾留延長は、日本の国内政治に起因するとの解釈が紹介されていた。中国社会科学院の研究者・葉海林によると、「日本の少数の政治勢力が釣魚島（尖閣諸島）問題を利用し、芳しくない日本の国内政局で成果を上げようとした」というのが中国側の解釈であるという¹。

「輿論戦」？：中国政府の対外姿勢に戸惑う中国人研究者たち

結局、菅政権は9月25日、中国人船長を処分保留で釈放した。中国人船長が釈放された直後、筆者は上海である会議に出席していた。当時、中国政府は日本政府に謝罪と賠償を求めている。このような状況であったが、非公式な形で、複数の中国人研究者が日中関係の急速な悪化に驚きと懸念を表明し、なかには中国政府の対応に困惑する声もあった。筆者はこれまで中国政府の見解を懸命に擁護する中国人研究者も多く目にしてきたため、印象的な経験であった。

中国政府に疑問を抱く中国人研究者に印象付けられたのは、どうやら筆者だけではないようである。アメリカでも活発に論説を公表している香港大学の David Zweig は、『ウォール・ストリート・ジャーナル』への寄稿において、中国政府と解放軍の強硬な対外姿勢に中国人研究者が戸惑い、中には怒りすら覚える研究者もいることを紹介した²。

¹ 葉海林「釣魚島風波的拐点效应」『国際先駆導報』2010年11月5日。

² DAVID ZWEIG, "Spooked by China's Hawks? So Are the Chinese", *The Wall Street Journal*, November 11, 2010. <http://online.wsj.com/article/SB10001424052748703848204575607752838513836.html>

中国人研究者の懸念の眼差しは、解放軍にも向けられているようである。Zweigによると、中国人研究者たちは、解放軍が利益団体として行動しているとの観察に同意したという。Zweigによると、中国では軍人が頻繁にテレビに出演し、解放軍が自らの課題を推し進め、外交政策を論じている状況にあるが、これが中国人研究者を懸念させていると指摘した。「中国人研究者は、予算の更なる獲得を目指す軍人ではなく、よりバランスの取れた自らの声がメディアで取り上げられるべきと信じている」というのである³。

こうした中国人研究者の様子を、中国政府や解放軍が国際的に作り出した強硬なイメージを薄めようとする「輿論戦」の1つであると、冷徹に解釈することも可能かもしれない。一定の条件のもとで、このような解釈が必要になる場面もあろう。尖閣漁船衝突事件では、日中に「領土問題」があることを、中国政府やメディアは活発に発信するようになってきているからである。さらに、11月20日に、農業部漁政局の漁業監視船「漁政 201」「漁政 310」が、尖閣諸島付近の日本の排他的経済水域を、領海線に沿って反時計回りに周回したのである。

しかし少なくとも、そのように断じるまえに、以下の点に留意する必要がある。「中国の行動は全て戦略的・意図的であるに違いない」という思い込みに縛られることを、意識的に避けるためである。第1に、中国政府のなかで起きていることを、中国人研究者が全て把握しているわけではない。第2に、中国政府に影響力があると目される中国人研究者もなかには居るが、実際のところ、彼らが解放軍を抑えることは難しいであろう。中国では、対外姿勢をめぐるシヴィリアンと軍人の意見の相違が表立ってきているのである。

それでは一体、中国の政治指導者、解放軍の行動を規定するのは何か。この問題は、われわれ外国人研究者だけでなく、中国人研究者にとっても重要な課題のようである。中国の対外姿勢を解釈するうえで、中国の国内政治への視座が欠かせない。

「覆水盆に返らず」：「領土問題」から後戻りできない日中関係

とはいえ、限界もある。第1に、中国人研究者の間にある、中国政府・解放軍の対外姿勢に対する一般的な「戸惑い」は、日中間に「領土問題」が存在するという、中国政府の主張を退けようとするものではない。先述したZweigの論考によると、ある中国人研究者は、中国人船長の解放は明らかに中国の勝利であるので、「なぜ中国政府が日本政府に謝罪を要求し、中国内陸部での反日デモを容認したのか」といふかったという⁴。船長の解放でことを納めなかった中国政府の対応が、行き過ぎだということのである。

第2に、尖閣諸島防衛へのアメリカの関与が再三確認されているが、これを問題視する見解も、中国側で一致している。中国の報道によると、10月30日ハノイで行われた米中外相会談において、クリントン國務長官が日米中三者対話を提案したという。11月2日、中国外交部の馬朝旭報道官は、「これは単にアメリカの考え方である」と指摘し、アメリカの提案を拒否した⁵。11月3日付の新華社は、「主権国家間の領土争いは当事国によって処理されるべきで、第三者の介入をすべきでないという「常識」から外れている」という、中国人民大学教授の時殷弘のコメントを掲載した⁶。

³ ZWEIG, “Spooked by China’s Hawks? So Are the Chinese”.

⁴ ZWEIG, “Spooked by China’s Hawks? So Are the Chinese”.

⁵ 中国外交部、「外交部發言人馬朝旭 11月2日応記者問」、2010年11月3日。

<http://www.scio.gov.cn/xwfbh/gbwxwfbh/xwfbh/wjb/201011/t794990.htm>

⁶ 「美国插手釣魚島不利于問題的解決」『新華網』、2010年11月3日。

http://news.xinhuanet.com/world/2010-11/03/c_13589573.htm

第3に、中国人研究者の意見も一枚岩ではなく、ときに荒唐無稽な議論もあらわれる。尖閣漁船衝突事件後、沖縄についての記述が以前よりも頻繁に見られるようになった。『環球時報』は、中国商務部研究院の日本研究者・唐淳風による、「琉球は日本領土にあらず、日本には釣魚島を中国について話し合う資格はない」、「中国は琉球独立運動を指示しなければならない」などの論評を度々掲載している⁷。

これらの限界は、今日の中国において、日中に「領土問題」が存在するとの認識を、「無かったこと」にできないことを示している。中国社会科学院の葉海林は、日中両政府は「一度の小さな衝突のために日中関係を“沈没”させるつもりはない」としながらも、「“亀裂を修復する”あるいは“戦略的互惠関係を維持する”ことについて、両国の外交部門には以前のような勢いはない」と指摘した⁸。「領土問題は、ゼロサム・ゲーム方式でしか解決できない。「尖閣諸島」と呼ぶのか、それとも「釣魚島」と呼ぶのかのどちらかであり、中間的な方法は根本的に存在しない。これは、いわゆる構造的矛盾である」。

尖閣漁船衝突事件が日中関係と中国外交にもたらす含意を、葉海林は悲観的にみる。「領土問題」という構造的矛盾によって日中関係は回復せず、さらには長らく中国外交が追及してきた、共通利益を拡大することで利益の衝突を和らげるという方法が、実質的に機能しなかったというのである。「中国の実力が増し、中国と他国の力関係が大きく変化する状況において、たとえ中国が、自らは「共通点を見つけ出し、異なる点は残しておく（中国語：求同存異）」を追及していると認識していても、海外からは「強硬になっている」とみられるのだ⁹。

世論は中国外交にとって諸刃の剣

中国メディアには、尖閣漁船衝突事件における世論の役割に注目する議論もある。11月9日付の『国際先駆導報』は、世論は中国外交を後押しするが、中国政府の外交的立ち回りの空間を大きく制約する諸刃の剣だという論説を掲載した¹⁰。

この論説は、中国政府の対日外交に、中国の世論は2つの効果を持ったと指摘した。第1に、世論が中国外交を後押ししたというものである。外交学院教授の呂風鼎は、日本が中国人船長を解放したのは、一定程度、中国国内の世論の怒りを恐れたからだと述べた。香港フェニックス・テレビの評論員・何亮亮は、日本による中国人船長の解放は、中国政府と中国世論の良い相互作用がもたらしたと高く評価した。

第2に、論説は、「世論には副作用があり、一種の諸刃の剣である」とも指摘した。世論の副作用の例として、一部のネット世論が、尖閣諸島や南シナ海における戦争手段による解決を求めたことが紹介された。論説は、「こうした言論は明らかに国益にならないが、これが一旦情勢を作り出せば、外交部門に大きな圧力になる」と警告した¹¹。

論説は、中国の外交当局が「世論カード」を切る例が増えているという、北京大学国際関係学院教授の賈慶国の指摘も紹介した。賈教授は、アメリカの人民元切り上げ要求に対し、中国政府は世論の

⁷ 「中国応指示琉球独立運動」『環球時報』、2010年11月8日。

<http://opinion.huanqiu.com/roll/2010-11/1234470.html> ;

「琉球并非日本領土、日没資格与我對話釣魚島」『環球時報』、2010年11月10日。

<http://history.huanqiu.com/china/2010-11/1243397.html> ;

⁸ 葉、「釣魚島風波的拐點效應」。

⁹ 葉、「釣魚島風波的拐點效應」。

¹⁰ 「民意助力中国外交出擊」『国際先駆導報』2010年11月9日。

¹¹ 「民意助力中国外交出擊」。

反対があると反論していることを例に挙げ、「政府は人々を代表しており、人々の利益を害するようなことは、政府はできないのである」と論じた。

しかし、この論説が、全体的には過剰な世論を諫めるトーンに傾いていることは、匿名の国際問題専門家のコメントを紹介した部分から伺える。「外交官の職責は他国と良好な外交関係を築くことであり、これは軍人が武力の威嚇によって国家を守る職責とは異なっている。しかし、一部の外交官は世論の影響を受けているようで、言論が極めて強硬であり、軍人の気質すら帯びている。これは、外交問題の解決のためにはならない。外交は相互の妥協の技術であるべきだ」。

それでは、中国政府は世論とどのように向き合うのだろうか。賈慶国教授は、「民意を十分に尊重するとともに、狭隘なナショナリズムへの反対を明確にしなければならない」と強調したという。『国際先駆導報』の論説は、「狭隘で偏った言論を消す最も良い方法は、禁止をすることではなく、人々の発言の権利を制限するとともに、国家が誠心誠意、外交政策について説明すること」と強調した¹²。

日本でも、政府は国民に外交政策を説明せよ、とよく指摘される。中国メディアにも同様の論調が見られるのである。しかし、より興味深いのは、狭隘なナショナリズムを抑えるために、人々の発言の権利を制限するという解決方法である。中国政府は、政治体制の矛盾を抱えたまま、「相互妥協の技術」である外交を行おうとしている。中国外交のねじれた「苦悩」がここにある。

(文責 毛利亜樹、同志社大学法学部政治学科助教・海洋政策研究財団研究員)

¹² 「民意助力中国外交出撃」。

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)